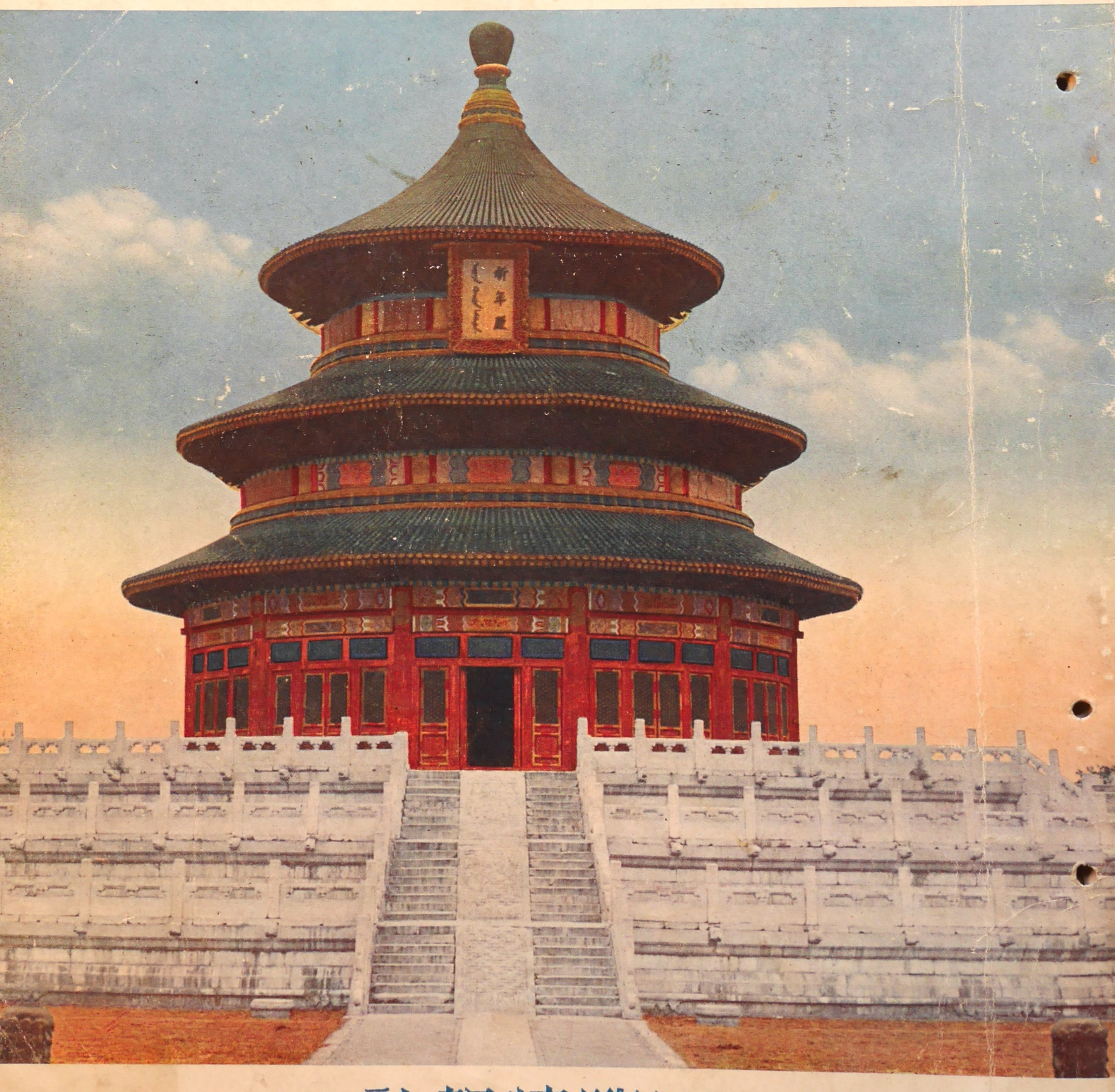
世界画報

昭和九年一月一日發行

新年號

第十巻 第一號

大正十五年十一月十日第三種郵便物認可 毎月一回一日發行
昭和八年十二月二十日印刷納本 昭和九年一月一日發行



東京 國際情報社 發行

世界画報 第十巻 第一號

表紙

◇北京の新年殿（原色版）
◇奉天北陵（原色版）

原色版口繪

◇黎明（立山の御來迎）……久住守景筆
◇德川時代の精華を誇る德川家靈廟の建築美
◇滿洲國の新門戸淸津港
◇モスコーに冬來る
◇舞樂圖
◇『今年は我輩の歳』蒙古犬の氣焰
◇西藏の首都拉薩の歳末氣分
◇火消勢揃ひの圖……月岡芳年筆
◇松鷹圖……狩野永德筆

女の働く國 福州の風習

◇福建獨立政府の首都福州（二色版）
◇特有の髪飾り（二色版）
◇艫を操る福州女（二色版）
◇農作に精出す福州女（二色版）
◇易者の竹廬（二色版）
◇爺の花賣り（二色版）

單色版

內地時事

◇皇后陛下御着帶の御儀　◇潜水母艦大鯨進水式　◇海軍大異動發令　◇軍國日本の非常時風景　◇世界無電の父マルコーニ侯來朝　◇ギャング封じの非常時警報開通　◇若槻氏上野驛で襲はる　◇五・一五事件民間側論告求刑　◇五・一五事件海軍側判決確定　◇其の他內地時事寫眞數十葉揭出……

滿支ニュース

◇日蒙親善の魁日本女性と蒙古人の結婚　◇關東軍將兵へ聖旨を傳達　◇獨立守備隊慰靈祭　◇泰安鎭守備戰の記念碑完成　◇福建政府成る　◇其の他多數揭出……

海外ニュース

◇ベルリンに於ける德川家達公　◇世界一のフーヴアダム　◇テレヴイジヨンより明確に早い無線電字器　◇美はしいスイス山村の風習　◇ドイツの緣結びの樹　◇ドイツの良妻賢母養成の學校　◇豪華船の繼ぎ足し工事　◇其の他海外ニュース多數揭出……

本號表紙解說

良き年を祈る天壇の新年殿（表）

支那、河北省北平の天壇（皇帝の祭親場）の新年殿は、帝政時代に新年祭を行つた式場で、新年祭と云ふのは皇帝親ら出座して、その年の平穩無事を天地の神に祈る新年の大祭典である。廻廊は全部大理石造り、瓦は碧い瑠璃瓦で實に壯麗なドームで、支那有數の代表的建築である。その華麗な色彩と彫刻は精巧をきはめてゐる。中でも前面階段の龍模樣は絕品と稱せられる。

奉天北陵の前庭（裏）

奉天の北陵は人ぞ知る滿洲國の祖先太宗文皇帝の靈柩を葬つてある。その輪奐の美は世界建築史上に有名である。

明治神宮壁畫集

連續揭載 特別附錄

本誌は昭和五年の新年號から左に揭げた通り明治神宮聖德記念繪畫館に奉揭の壁畫を連續揭載して各方面から多大の賞讃を得て居ります。その後の壁畫は目下各畫伯に於て謹寫中ですから、出來次第次々に揭載する豫定であります。御期待下さい。

◇昭和五年度◇

新年號　日露役旅順開城　荒井陸男畫伯筆
　　　　歌御會始　山下新太郎畫伯筆
二月號　日露役奉天戰　鹿子木孟郎畫伯筆
　　　　熊本籠城　近藤樵仙畫伯筆
三月號　五箇條御誓文　乾南陽畫伯筆
　　　　大婚廿五年祝典　長谷川昇畫伯筆
四月號　凱旋觀兵式　小林萬吾畫伯筆
　　　　下關講和談判　永地秀太畫伯筆
五月號　日露役日本海々戰　中村不折畫伯筆
　　　　東京慈惠病院行啓　滿谷國四郎畫伯筆
六月號　皇后宮田植御覽　近藤樵仙畫伯筆
　　　　臺灣鎭定　石川寅治畫伯筆
八月號　琉球藩設置　山田眞山畫伯筆
　　　　不豫　田邊至畫伯筆
九月號　日韓合邦　辻永畫伯筆
十月號　廣島大本營御親裁　南薫造畫伯筆
　　　　凱旋觀艦式　東城鉦太郎畫伯筆
十一月號　赤十字總會行啓　湯淺一郎畫伯筆
　　　　御元服　伊東紅雲畫伯筆
　　　　華族女學校行啓　跡見泰畫伯筆

◇昭和六年度◇

新年號　靖國神社行幸　淸水良雄畫伯筆
　　　　教育勅語下賜　安宅安五郎畫伯筆
二月號　習志野之原演習行幸　小山榮達畫伯筆
　　　　山形秋田巡幸鑛山御覽　五味淸吉畫伯筆
三月號　岩倉邸行幸　北蓮藏畫伯筆
　　　　農民收穫御覽　森村宜稻畫伯筆
四月號　樞密院憲法會議　五姓田芳柳畫伯筆
　　　　廣島豫備病院行啓　石井柏亭畫伯筆
五月號　踐祚　川崎小虎畫伯筆
　　　　憲法發布觀兵式行幸啓　片多德郎畫伯筆
七月號　德川邸行幸　木村武山畫伯筆
八月號　地方官會議臨御　磯田長秋畫伯筆
九月號　王政復古　島田墨仙畫伯筆
十月號　大總督熾仁親王京都御進發　高取稚成畫伯筆
十一月號　陸海軍大演習御統監　長原坦畫伯筆

◇昭和七年度◇

新年號　立親王宣下　橋本永邦畫伯筆
二月號　ポーツマス講和談判　白瀧幾之助畫伯筆
五月號　北海道巡幸屯田兵御覽　高村眞夫畫伯筆
六月號　廢藩置縣　小堀鞆音畫伯筆
七月號　軍人勅諭下賜　寺崎武男畫伯筆

◇昭和八年度◇

三月號　樺太國境劃定　安田稔畫伯筆
九月號　鳥羽伏見戰　松林桂月畫伯筆

黎明

▲立山の御來迎▲

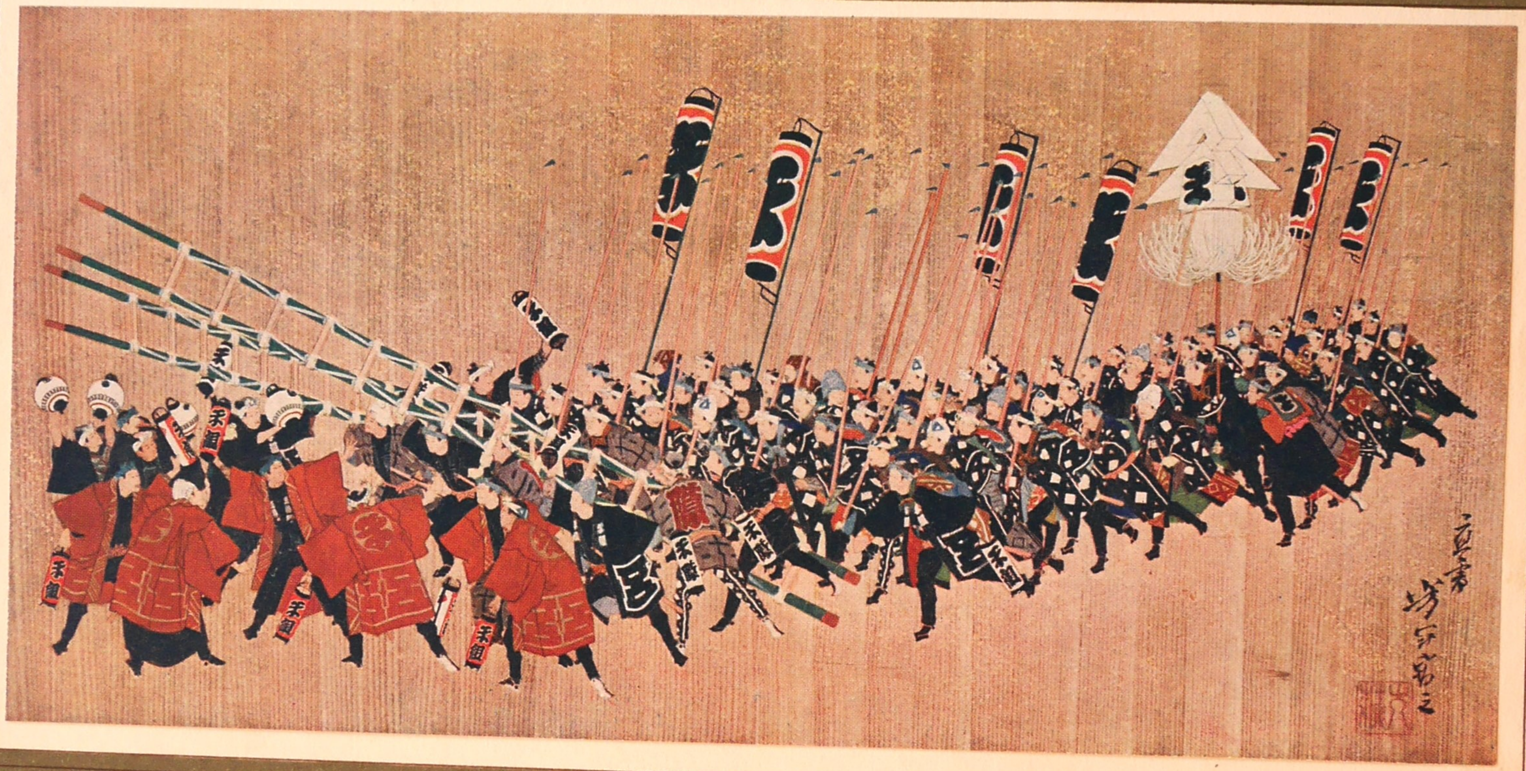
昏黒の東天が漸く白け渡り、やがて眞紅の太陽がゆら〳〵と浮び出でますと、幾百千條の光芒が一齊に天に向つて迸り、燦爛と輝いて凝視する事が出來ません。下界は全く雲海の底深く沒して、僅かに友峰が孤島の樣にその頂を雲上に現してゐます。全山の靈氣又一齊に立罩めて神嚴極りなく、旭光陸離として極目千里の雲海上を照す光景、神嚴といはふか、莊麗といはふか、雄大無邊な大自然の莊嚴神秘の姿に、無限の感懷に打たれて唯々感嘆の聲を發するのみです。

久住守景筆

『舞　樂　圖』

東京・根津嘉一郎氏藏

久住守景は、德川中期の畫家であります、彼の有名な狩野探幽の一番弟子で、非常にうまい人でありましたが、性質が奔放で、あまり元氣がありすぎ、その上お酒が大好きで常に勝手氣儘な行爲をしてゐたので、師匠の探幽から叱られてばかりゐました。ある時、探幽がある大名から賴まれた立派な屛風を畫いて『我れながらうまく出來た』と喜んでゐると、醉拂つた守景が來てその屛風へ滅茶々々ないたづら畫きをしてしまひました。探幽は非常に怒つて遂々守景を破門しましたが、守景はかへつて氣樂になつたと喜んで一生涯獨りぼつちで自由に、愉快に藝術的な生活を續けたと云ふ事です。斯んな風に堅苦しい、形式張つた事の嫌ひな人ですからその傳記などは殆ど不明でありますが、いくら醉つてゐても、一度繪を畫く時になると、見違へる樣に眞面目な態度となり、他に何事も考へず一心不亂に筆を執つたと云ふ事です。守景の樣な人こそ本當の藝術家と云ふ可きでありませう。守景は重に墨や淡彩で畫いた元氣のよい風景畫を得意としましたが、此處に揭げた根津さん御所藏の屛風は、華麗絢爛を極めた大屛風で、守景の畫としては非常に珍らしいものと云はなければならないのです



月岡芳年筆「火消勢揃圖」

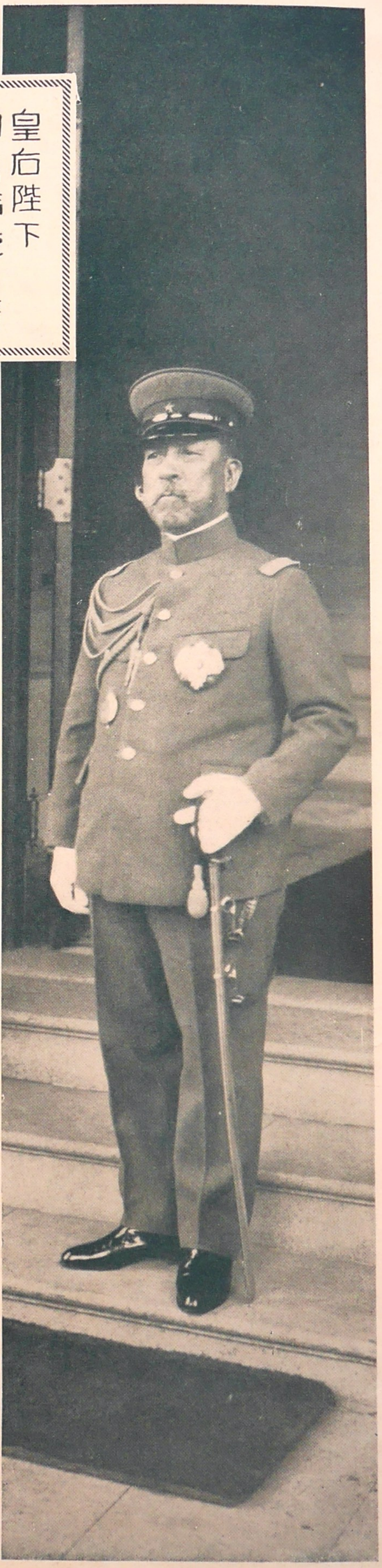
（赤坂氷川神社藏）

『今年は我等の年 蒙古犬の氣焔』

『ワン〱古臭い文句だが『我輩は蒙古犬である』と先づ自己紹介をして置いて……扨て愈々我輩等の歳が來た、大いに發奮しずばなるまい。先頃の滿洲の戰では同族のシエパード連が勇敢な日本の兵隊さんと一緒に華々しい活躍をしてあの憎い匪賊共を追拂ひ中には金鵄勳章を貰つたものさへあつて我輩等まで肩身が廣いといふものだが、何アに我輩等だつてシエパードに負ける事はないぞ、いや斷然負けないぞ、擧動の敏捷さと體力の强健さ、悧口な事は既に定評のある我輩等だもの、萬一日本の軍隊で採用さへして呉れゝば、一旦緩急の場合に金鵄勳章は受合ひだ、さあ爺さん、我輩等の歳を迎へたを機に一つ日本へ行つて採用方の陳情をしやうではないか、ワン〱……』

皇后陛下 御着帯式の儀

―御帯親は今年も閑院元帥宮殿下―



めでたくも御懐姙御九ケ月にわたらせ給ふ皇后陛下には、十一月廿八日の戌の吉日を卜され、特に宮中喪の御除喪を仰せ出されて聖上陛下の御前に於て、いと莊重に御着帯式の儀を執り行はせられた。

御儀に先だち、この度も重ねて御帯親の勅命を拜された閑院元帥宮殿下の御使稻垣別當は燕尾服に威容を整へて午前八時四十分、生平絹の御帯一丈二尺を納めた松鶴模樣もめでたい蒔繪御衣筥を捧持して宮中に參入內謁見所において廣幡太夫を經て進獻し御嘉納の旨を拜して退下、その趣を殿下に復命、御帯は菅野裝典によつて神殿の案上に供へられた。かくて三殿奉告の儀があり、いよ〱御着帯の儀を行はせらるべく天皇陛下には陸軍の御通常服、皇后陛下には桂袴の御儀服におすべらかしの氣高き御裝ひで午前十一時大奥御座所に出御、湯淺宮相、鈴木侍從長、廣幡太夫、佐藤侍醫頭、磐瀨御用掛など次室に御控へ申上げ、竹屋女官長津輕女官御介添への上、めでたき御着帯の儀をあげさせられた。

（右）參內の御帯親閑院元帥宮殿下
（左）めでたき御帯を捧持して閑院宮邸を出る閑院宮殿下御使稻垣別當

【左】

女ながらも薙刀とって 非常時を切拂ふ勇姿

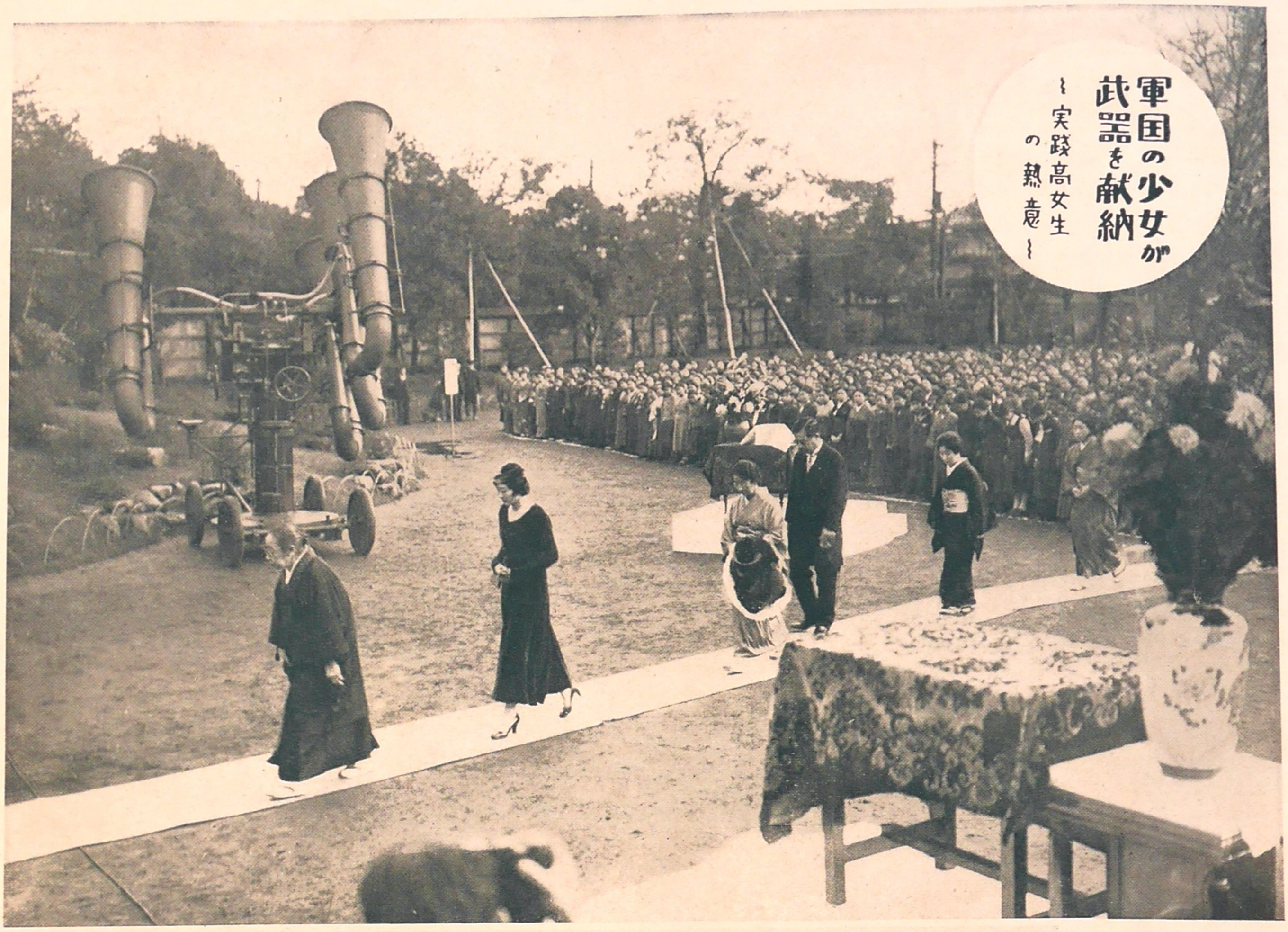
陸軍參與官石井三郎氏を會長とする皇道義會東武館では十一月廿六日梨本宮殿下の台臨を仰ぎ、千駄ヶ谷の同會道場で華々しい劍道大會を開催した。

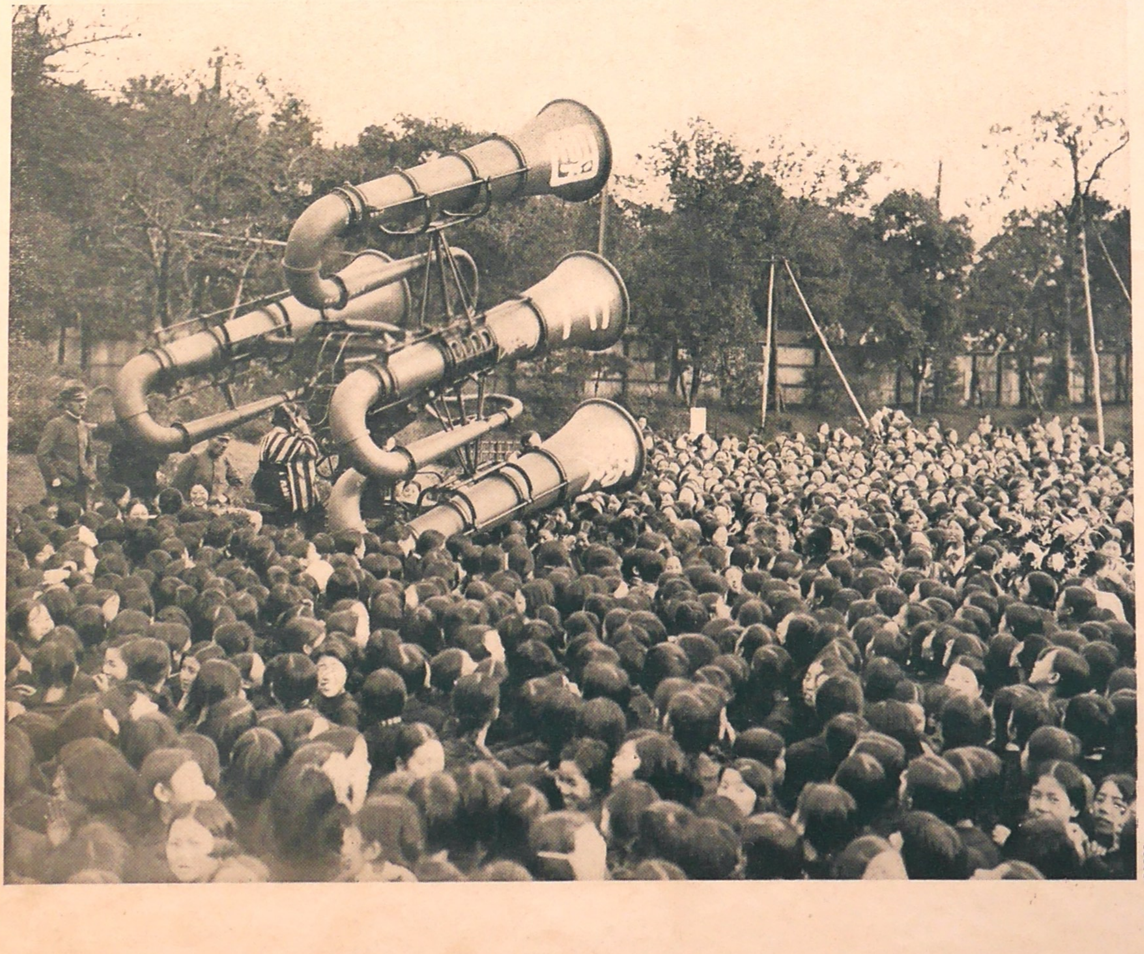
午前八時石井會長の開會の挨拶に初まり、全國の學校、諸官省各會社から選出した劍豪による息づまる樣な對抗試合の終了後山内豊景侯禎子夫人の直心影流薙刀、術型、皇道義會の薙刀の女子部三十名の型があり、續いて少年及び精練證の模範試合、警視廳、戸山學校、宮内省、皇宮警察の敎士の火花を散らす熱戰が展開され、さながら昭和の御前試合の觀を呈して夕刻盛會裡に式を閉ぢた。

寫眞は梨本宮殿下の御前で、型を行ふ女子部員の勇ましい姿——非常時女性の燃える樣な意氣がほのみえて、床しい限りではないか。

軍国の少女が武器を献納

～実践高女生の熱意～





帝都防空のため、實踐女學校の教職員、生徒が醵金した一萬一千餘圓によつて生れ出た九〇式大型聽音機及び高射機關銃等の防空兵器の献納式は、十一月廿七日午後一時から澁谷常盤松の同校々庭で擧行された。同日同校を御卒業遊ばされた李鍵公妃殿下には親しく台臨遊ばされ、鳩山文相、荒木陸相(代理)山本内相(代理)など出席、献納兵器の操作、空中戰鬪の實演などあり盛大裡に式を閉ぢた。

(上圖)台臨の李鍵公妃殿下

(下圖)献納聽音機を圍んだ同高女生

琵琶界の異彩

ダニエルさん

外國婦人が發心して筑前琵琶の免許を得たこの婦人は米國人を父に、ロシア人を母に、大連、上海等に流轉の數奇な運命をたどつて來た人で、四谷鹽町の筑前琵琶の宗家橘旭華氏についてお稽古に精進した甲斐あつて外國人として初の免許を得たものである。

(上右)は琵琶を手にしたダニエル旭喜さん

上海事變のx27號

徳田シシルさん

上海事變の當時かよはい女性の身をもつて支那婦人に變裝して皇軍のためX27號の役割を演じた徳田シシルさんは十一月廿二日朝横濱入港の大洋丸で上京した。シシルさんは上海工部局の學校で英語教師として教鞭をとつてゐたが、上海事變勃發するや、祖國日本のために幾多の危險を冒しつゝ支那人に變裝して活躍したものである。

(上左)徳田シシルさん

米國へ人形贈呈

—目白の女大生が—

目白の女子大學では同校年中行事の一として野見山教授の斡旋で、生徒一同から米國の女子大學へ日本固有の人形を贈ることゝなつた。人形の着物は學生の手になつたものである。(下左)は米國へ行くその人形。

お臺所の一大事と婦人團の陳情

近く東洋一の設備をもつて出來る中央卸商市場卸商人の單一制は市民の御臺所に一大恐慌を來すものだと反對の氣勢をあげてゐる都下十二團體の婦人代表は、十一月廿二日牛塚市長を訪問、集まつた二萬五千の請願書を提出して反對の陳情を行つた

(下右)は市長に陳情の婦人代表

女騎士颯爽！

東京乘馬クラブでは、十一月廿六日朝牛込の水野ヶ原同倶樂部馬場で第三回乘馬大會を盛大に擧行したが參加した錚々たる名士の中に颯爽たる女流騎士が雜つて一段と華をそへた（上右）は參加の女流騎士

名流夫人の街頭募金

惠まれぬ「母と子」慰安

東京聯合婦人會外都下の各婦人團體は、十一月廿三日缺食兒童のために、母子保護の街頭募金を行つた。市役所前の出發式には、首相夫人、文相夫人、市長夫人等名流夫人も出動し、一同は數班に分れて『捧げよ、めぐまれぬ母と子に』と染め拔いたたすきがけで市內目拔の場所で奉仕した。（上左）は白木屋本部前で――向つて左から――鳩山文相夫人、一人置いて守屋女史、齋藤首相夫人、山田わか女史、吉岡彌生女史。

赤十字デーのピン賣り

非常時の銃後を守る資金を得るため、十一月十五日の赤十字デーに、篤志看護婦人會員は總動員で街頭に進出、赤十字のマーク入りのピン（一ヶ五錢）を市內各所で賣つた。（下右）は九段下にて――向つて左より――小磯夫人、本野夫人、宇津木夫人、荒木夫人である。

花嫁學校を卒業した 高橋藏相令孫と淸浦伯令孫

お茶の水の花嫁學校の第三回卒業式は十一月四日同家庭寮で行はれ、百四名の花嫁候補が晴れやかに卒業した。今度の卒業生は今春入學した人達で、高橋藏相令孫美代子さんや淸浦伯令孫悠紀子さん、後藤農相令姪河野よしさん、床次竹二郎氏令姪敏子さんなどがあつた。（下左）式後餘興の長唄に入る淸浦悠紀子さん（右）と高橋美代子さん（左）

新渡戸博士カナダで客死し
―遺骨悲しく歸朝―

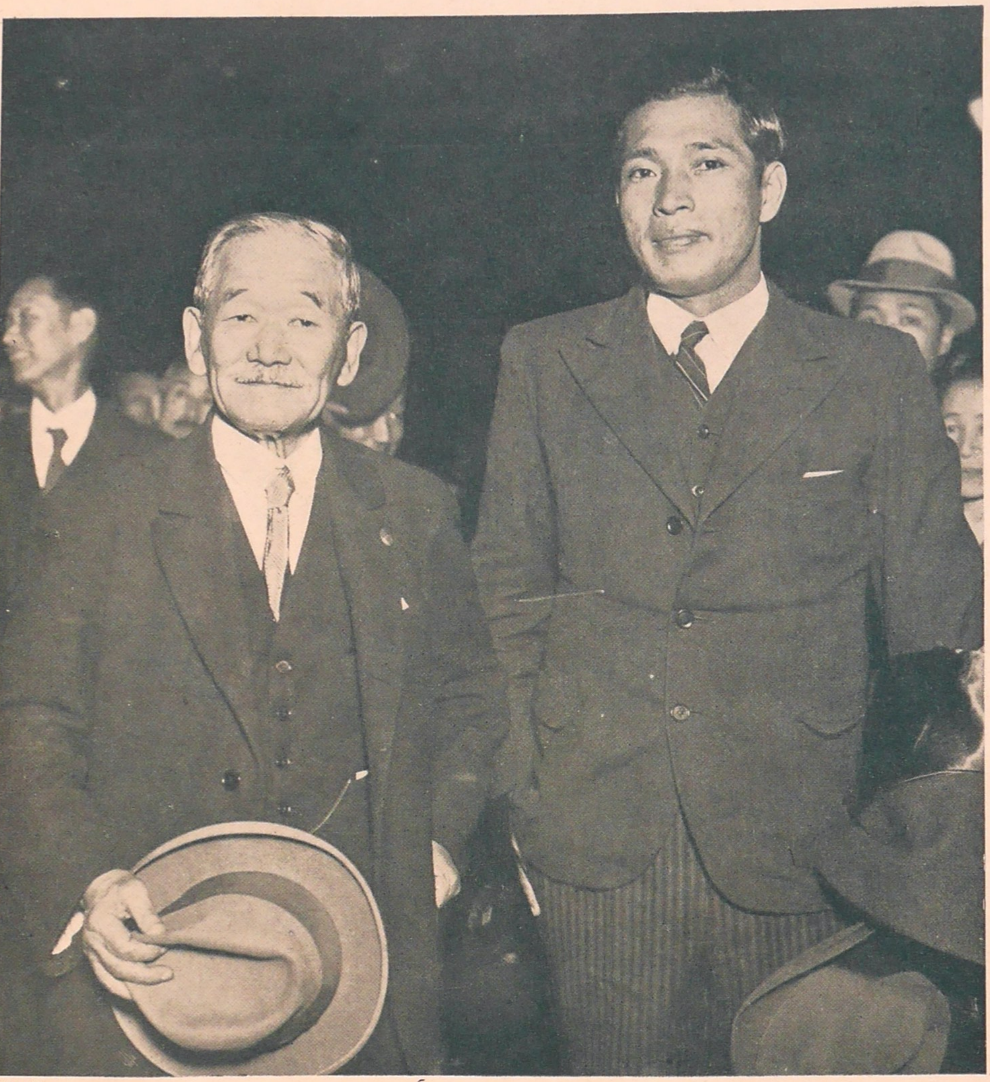
『太平洋の橋』を念願として日米親善、世界平和のために碎身の努力をしてゐた新渡戸稻造博士は、全米各地を遊說して眞の日本を米國民に紹介し、更に太平洋會議に出席したが不幸遂にカナダに於て客死し、その遺骨は十一月十二日横濱入港の秩父丸で、未亡人に護られて悲しい歸朝をした。稀にみる世界人として、不斷の努力を惜しまなかつた博士の死は、實に悼みても餘りある。博士の葬儀は、十一月十八日午後零時半から青山齋場に於て、佐藤昌介男葬儀委員長の下に、朝野の名士多數參列の下に悲しくも盛大に執り行はれた。

（上圖）は小石川小日向臺町の自邸に於ける前日祭。

財界の恩人 澁澤青淵翁の銅像除幕式

我が財界の恩人澁澤青淵翁の銅像は、帝都商業の中心地、日本銀行附近の常盤橋門趾に建立され、その除幕式は、十一月十一日午後二時半から盛大に擧行された。生憎の雨にもめげず凡そ財界の諸名士が皆出席し、一門郎黨全部で約五百人參集、今更らに生前の德がしのばれた。

（下圖）は除幕された銅像。



オリムピック委員會で活躍した 嘉納治五郎氏歸朝

去る六月ウインに開かれた國際オリムピック委員會に、日本代表として出席し、更にマドリッドに開られた萬國議員聯盟會議に日本代表として出席した貴族院議員、講道館長嘉納治五郎氏は、閉會後鷹崎、小谷兩六段をつれてベルリン、ミユンヘン、ロンドン、パリなどのヨーロッパ各地を巡歴して柔道の講習と講演を行ひ、十月廿日午後三時横濱入港の筥崎丸で歸朝した。

(上圖)歸朝した嘉納治五郎氏

フオレッチ獨大使に御陪食

フオレッチ獨大使は愈々歸國する事になつたので、畏き邊では十一月廿八日午後零時半同大使を宮中に御召し御陪食仰付けられた。(下右)參内のフオレッチ獨大使。

藤田畫伯夫妻歸朝

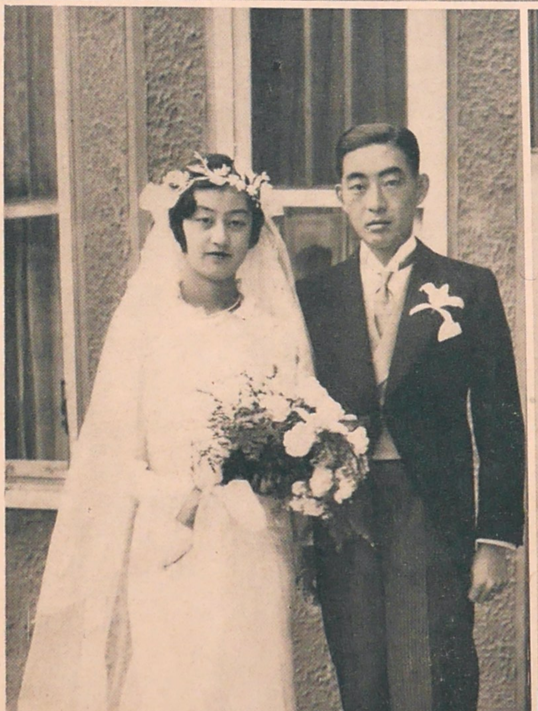
パリから南米北米の繪行脚を續けてゐた藤田嗣治畫伯は、新夫人マドレーヌさんを伴つて、十一月十六日四年ぶりで歸朝した。

(下左)歸朝した藤田畫伯夫妻

おめでた三つ

山本伯令孃と阿部清次君（上）

山本權兵衞伯令孃滿喜さんと實業家阿部圭一氏次男清次君の結婚式は齋藤首相夫妻媒酌の下に十一月廿五日丸の內會館で擧げられた阿部君は慶大ラグビー選手、滿喜さんは女子學習院出の才媛である。



葛城茂麿伯と細川敏子孃（下右）

山階宮故菊麿王第五王子から臣籍に御降下になつた陸軍步兵中尉葛城茂麿伯と細川護立侯長女敏子孃の結婚式は、十一月廿五日の吉日をトし、近衞公夫妻の媒酌で牛込市ヶ谷仲町の伯爵邸で、宮中御喪中の御事とて御遠慮申上げて內々に擧げられた。

島津久大氏と經子姫（下左）

島津忠重公の長女經子姫と維新の元勳島津久光公の令孫島津久大氏の結婚式は、十一月十五日澁谷の島津公邸で、大久保利賢侯媒酌で擧げられた。久大氏は忠承公の令弟で外務省亞細亞局勤務の俊材外交官で經子姫は女子學習院出の才媛である。

徳川時代の精華を誇る
徳川家靈廟の建築美

東京が近代様式の都市美を整へて行くと共に、江戸文化の粋を誇る建築物は日に日に數を減じて行き、僅かに芝の增上寺と、上野の寛永寺の德川歷代將軍の靈廟が江戸時代の工藝美術の粋をこらした建築として殘されてゐます。寫眞は增上寺の六代將軍家宣公の靈廟文昭院唐門の廻廊です。この文昭院は正德三年の造營で、秋元但馬守が造營奉行となり、型を日光廟に採つて絢爛な元祿文化の精髓を遺憾なく現した代表的建築です。廻廊の彫刻は百花百鳥、天井の天人は狩野安信の筆になるものです

福建獨立政府の首都福州

福建の獨立運動は愈々具體化して、十一月廿日遂に福州に於て獨立宣言を發表し李濟琛氏を主席とする『人民革命政府』が成立しました。これによつて今までの一田舎町に過ぎなかつた福州は、今では全支那、否全世界の注視の的となつてゐます。――福州は福建省の首府で人口約三十萬、城市は南方には有名な烏石山と九仙山、北方に越王山を擁して周圍約八キロの城壁にかこまれて、市街一帶は南支らしい色彩に満ちて、何となく落ち付きのある状景を展開してゐます。（寫眞は福州市街です）

女の働く国

独立を宣言した福州の風俗

福建、廣東地方は、昔は閩粤と呼ばれて大變な不健康地帶だと考へられ、支那本部とは言葉も通じない僻地でありました。——今では交通も開けて北支方面と大した相違のない程發展してゐますが——然しその言葉は依然として北平語や上海語とは異つてゐます。言葉が異つてゐる樣に、その風俗や習慣にも北支那あたりとは異つた一種特別なのが澤山あります。その中でも訪客の一大驚異となるものは、福州一帶は『女の働く國』だといふ事でせう。この地方の女は實によく働きます。男は大抵出稼ぎに出て了つて殘つた女達が家事一切から、農作に、行商に、運搬にその他の勞役に懸命に働いてゐます。女が働いたからとて別に驚く程の事はないじやないかといはれる方もあるでせうけれども、北支那方面では女が家事以外の勞働に從事してゐるところは餘り見かけないのです。それで、北支方面だけをみた人は、簡單に支那の婦人は皆遊惰で働くことを知らないのだと思ひ込んでしまひますから、福州へ來て女達が骨身を惜しまずよく働くのをみますと實際驚嘆してしまふのです。よく働く福州女は又非常な潔癖性をもつてゐます。これも北支とは異つた所です。閩江江上には艪を漕ぐ婦人をよくみますが長江沿岸地方の民船が不潔なのに比べてこゝの船は舷頭も淸らかに拭ひ去られて一の汚點さへ殘さず、しかも船頭のおかみさんが一生懸命になつて亭主を助けてゐる樣子など見る目も美しいものです。福州女の服裝をみて一番目につくのは特殊なその髮飾りです。二本の長い錫製の笄を挿し、髱のうちに差ちがへてゐるその姿は、鄙びて何となく古典的な情趣さへ汲みとれます。それから福州のローカル、カラーの最も美麗を極めたものとして有名なものに五彩の山東船があります。目も綾に塗りたてたこの山東船が舷々相摩して閩江上に浮んでゐる光景は全く龍宮世界を想はせるものがあります。

扨てこれから掲載した寫眞に從つて福州の風習を二三みませう。

特有の髮飾り（右）

拔身の鎗の樣な特有の簪——これは福州女を表徵する一風俗です。昔は身を護るために用意した小刀であつたさうですが、今は形を變じて簪となつてゐます。昔の氣骨を忘れない福州女の意氣がみえるではありませんか雨傘をかゝへ、擔ひ竹を執つた姿、語らずして働く女である事が想像されます。

艪を操る女（左上）

艪を自らあやつつて江上に荷物を運ぶ女達——こういふ光景は北支の女には餘り見られません。これ等の女は普通のものは陸のものとは結婚も出來ず船頭仲間を形成してゐます

農作に精出す女（左下）

肥桶をかついで、施肥に精出す女——桶のつくりも甚だ奇妙なものですが、桶に長い竹筒をつけて、それから肥料が奔出する有樣も實に奇妙ではありませんか。

易者の竹盧（上）

池畔にむすぶさゝやかな竹盧の床しさ、主人の人柄も想像が出來ませう。人集りのする場所へテントなどを簡單に張つて、〇〇易斷所などゝ書いてあるいはゆる『八卦見』とはいさゝか趣を異にします。儒門星學の看板や、日月星遇機測字の文字も、何となくピッタリしてゐるではありませんか、唯竹垣につるされた洗濯物がこれ等の感じをこわさないでもありませんが……これも福州でみた一景です。

爺の花賣り（下）

首都福州の街上にこういふ花賣りの老人をみかけます。雨の上つた後でせう、老人の背後には福州名物の雨傘が見えます。この雨傘は福州女の異樣な髮飾りと共に、代表的な珍品です。

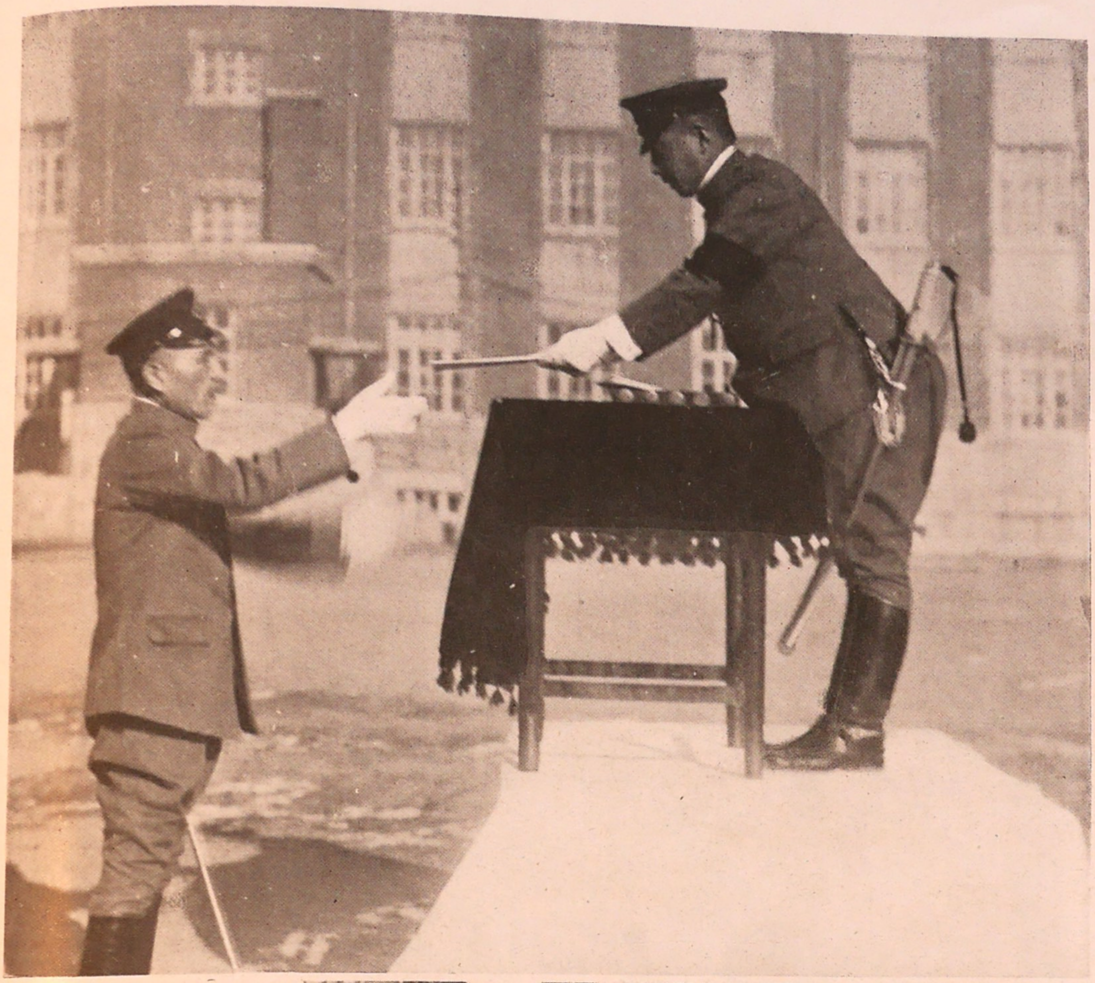
日蒙親善の魁

日本女性と蒙古人の結婚

我が日本が大踏歩を以て堂々と前進するに刺戟されて、亞細亞各民族も漸次目醒めて起ち立つた。見よ！滿洲國の躍進を、蒙古民族の覺醒を――此の秋に當り亞細亞民族大團結の魁として、日本女性と蒙古志士の魂が相結ばれて結婚したといふ一大快事がある。

蒙古志士とは、大亞細亞聯盟結成の先驅者として活躍してゐた蒙古の熱血青年正珠爾札布氏(二八)で、日本女性とは米蓮江孃と呼ぶ才媛である結婚式は先程新京に於て擧げられたが、川島芳子孃をはじめ、日、滿、蒙の各名士多數參列して盛大であつた。

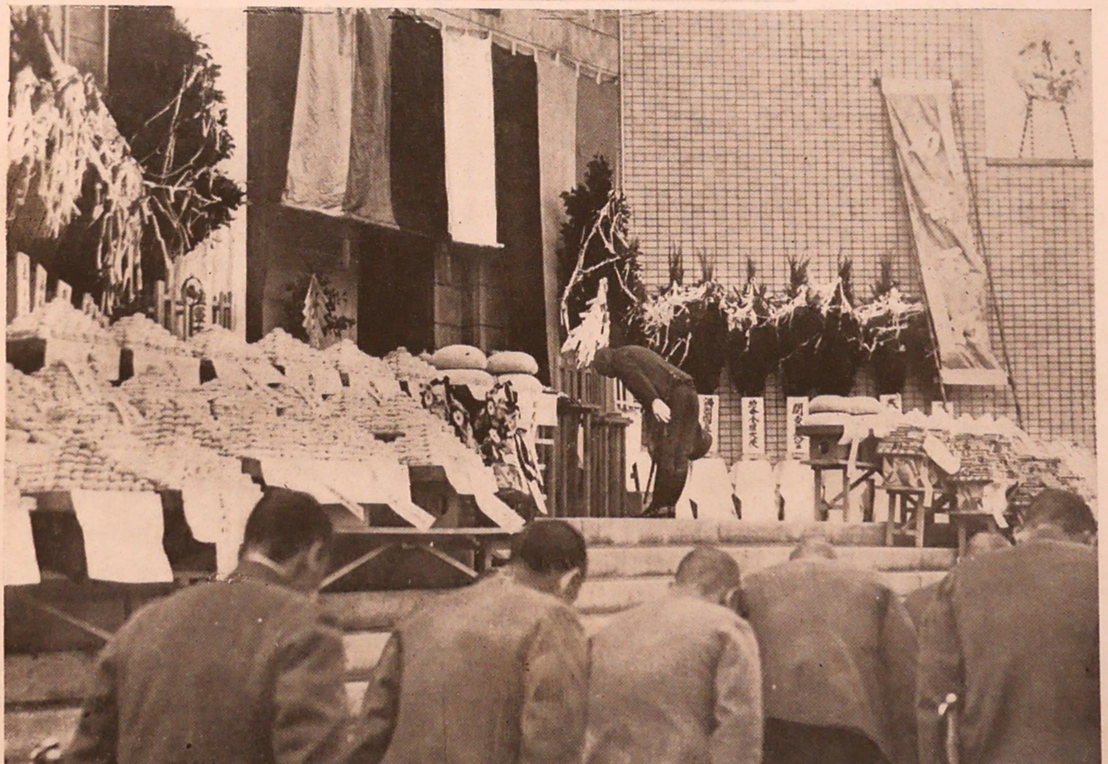
寫眞は新郎と新婦と、左端は川島芳子孃である。



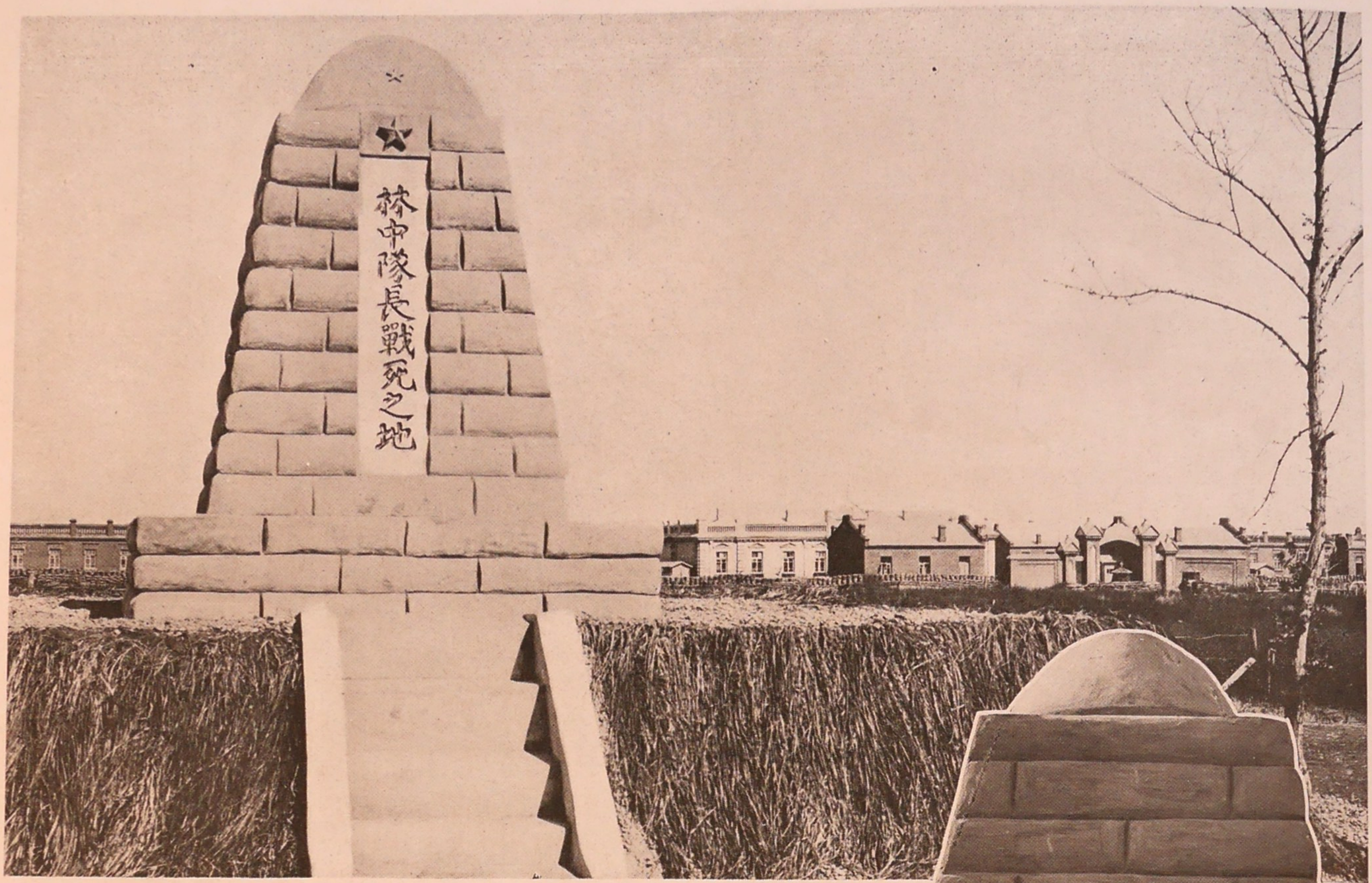
石田侍從武官 關東軍將兵へ 聖旨を傳達

畏き邊りに於ては、嚴寒と戰ひつゝ國防の第一線に立つて奮闘してゐる關東軍將兵を御慰問のため、侍從武官石田大佐を御差遣遊ばされた。同大佐は、十一月十八日午前七時岡村關東軍參謀副長、田代憲兵司令官以下の盛んな出迎へを受けて新京に到着、同十時より關東軍司令部營庭に於て、菱刈司令官以下關東軍將兵に對し、聖旨及び令旨、御下賜品を傳達した。これに對し菱刈司令官は聖恩に恐懼感激、聖旨、令旨に副ひ奉らんことを期する旨奉答した。（上圖）はその聖旨傳達式

独立守備隊の 慰靈祭 ―奉天にて―



滿洲事變勃發以來、各地に轉戰すること實に八百七十二回、武勳赫々たる獨立守備隊では、その間に護國の鬼と化した戰友二百五十餘名の英靈を慰めるため、十一月十九日午前十時から奉天忠靈塔前で土肥原關東軍司令官代理、林滿鐵總裁、臧奉天省長、その他官民多數參列の下に盛大な慰靈祭を擧行した。この日忠靈塔境內は早朝各地から集まつた獨立守備隊、各學校生徒、在鄉軍人、滿洲國軍隊等によつて埋められ、午前十時祭主井上獨立守備隊司令官弔詞祭文を朗讀、參列諸員玉串を奉奠し、最後に獨立守備隊の歌を合唱して式を終へた。（下圖）祭主井上司令官の拜禮



泰安鎮守備戦の武勲を物語る記念碑完成

昭和七年の十月下旬反匪掃蕩に當り、我が松木部隊の林中隊が泰安鎮に於て反軍撲炳珊軍等約四千の爲め重圍に陥り、悪戰苦闘二旬に及び、中隊長以下多数の死傷者を出しながらも堅忍持久よく皇軍の意氣を遺憾なく發揮した事は我々が熱涙を禁じ得ない所であるが同中隊の華々しい奮闘を永遠に物語る記念碑がこの程同地に完成した。碑は當時守備戦のシンボルたる土嚢を現したもの、碑表は松木部隊長の揮毫になるものである。

(上圖)は林中隊長の武勲を物語る記念碑
(中圖)は記念碑裏の碑文
(下圖)は林中隊が守備した泰安鎮の兵營、――この兵營は舊軍閥が建てたものである。『死守』の二字は戰闘の間、我が歩哨が自己の決意を示す爲め空藥莢を土疊に裝したもので永久保存の爲めコンクリートで固めたもの、哨舎に白色を以て○を附したのは彈痕である。

満支から來朝した人々

市政視察の各市長（右上）

金（新京）闞（奉天）程（吉林）楊（チ、ハル）の各市長は、東京、横濱、名古屋、京都、大阪等各都市の行政事務視察のため、大連市會副議長若月太郎氏と同道で十一月十日入京した。寫眞は明治神宮參拜の（向って右より）楊、金、闞、程各市長である。

中央銀行總裁榮厚氏參內（左）

我が國の銀行業務視察のため來朝滯京中であった滿洲國中央銀行總裁榮厚氏は、十一月廿四日午後一時宮中に參內、天皇陛下に謁見仰付けられた。寫眞は參內する榮厚總裁

古代刑法學の權威董康氏（下右）

支那古代學刑法學講演のため我が中華民國法制研究會が招聘した支那古代刑法學の權威中華民國元司法總長現東吳大學教授董康氏は十一月十一日午前八時半東京驛着列車で來朝同十一時官邸に小山法相を訪問した。寫眞は（向って左より）小山法相、董氏

日本をはさんで 米蘇の握手

全世界注視の的であつた米蘇の復交交渉は十一月十六日午後十一時五十分遂に成立した。即ちソヴィエト特派使節として米國に乘込んだリトヴィノフ外相は、着米以來ルーズヴェルト大統領と五回、國務省當局と三回に亘り會商を重ねた結果、遂にこの日この時復交交渉の成立をみ、翌十七日午後四時十五分ホワイト、ハウスから正式に兩國復交成立が公表され、こゝに十四年ぶりで兩國の復交は實現され、ソ國はこの米國の承認によつて世界各國と國交を持つことゝなつた。

(上左)は承認の日の(この日米蘇の國交復交は世界平和の强化に寄與するものであるとの聲明書を發した)駐日蘇國大使ユレネフ大使

ソ大使館情報部長 アスゴフ氏着任

ソヴィエト大使館新任一等書記官情報部長エ、ピ、アスコフ氏は家族同伴、十一月十四日着任した(上右)は大使館についた同氏

全亞細亞軍の組織運動に起つプラタップ氏

印度革命の志士マハンドラ、プラタップ氏(アフガニスタン王族)はかれて日本各地を歴遊して精神的な全亞細亞軍の組織に奔走しつゝあつたが、今度同運動と、氏年來の使命たる世界聯邦平和運動を滿洲國及び支那蒙古各方面に擴大强化するため、十一月廿四日東京驛發壯途についた。(下圖)は出發のプラタップ氏と見送りの宮崎龍介氏

非常時 海の新鋭「大鯨」進水式

海國日本の眞の非常時一九三五、六年は迫り來た。此の秋に當り我が海の生命線を牢守すべき新鋭潜水艦『大鯨』は完成し、十一月十六日横須賀海軍工廠で進水式が行はれた この日參列の人々は、大角海相、永野横鎭長官を初め、顯官將星二千有餘名に及び、この盛儀を拜觀せんと軍港に押し寄せた人々は無慮十萬を越えた。定刻大角海相は進水式諸員を從へて正面式臺に臨場、進水命令書を朗讀し、次いで諸作業の後、横須賀海軍工廠長村田中將は、銀斧一撃支綱を切斷すれば、滿艦飾の巨體はゆる〱海上にすべり出した。

新艦『大鯨』は本年四月横須賀海軍工廠で起工し、幾千の技工が晝夜兼行で工作を急ぎ僅か七ケ月で立派に建造されたもので、噸數一萬、速力二十ノットである。(寫眞は正に進水せんとする光景)

我が海軍の非常時陣容

—海軍大異動発令—

愈々重加する非常時局海防に、萬全を期せんとする海軍定期大異動は、例年より繰上げて十一月十五日發令された今回の異動は時局に鑑み、海軍傳統の海上本位主義に則り海上の第一線部隊に人材を配置した實に我が海軍の非常時陣容である。その主なるものを擧ぐれば——聯合艦隊兼第一艦隊司令長官小林躋造大將と横鎭長官野村吉三郎大將が軍事參議官に、第二艦隊司令長官末次信正中將が聯合艦隊兼第一艦隊司令長官に、軍令部次長高橋三吉中將が第二艦隊司令長官に——（この末次高橋のバツテリーで海上を固めたのは非常時局に對處して最も好ましい配置といはれてゐる）——永野修身中將が横鎭長官に、米内光政中將が佐世保鎭長官に親補され、新軍令部次長には松山茂中將が、新海軍航空本部長には加藤隆義中將が夫々轉補され、左近司政三中將は軍令部出仕となつた。尚ほ小林、野村兩大將、末次、高橋、永野、米内四中將の親補式は、十一月十五日午前九時卅分宮中鳳凰の間に於て天皇陛下出御遊ばされ、齋藤首相侍立の上行はせられた（寫眞は親補式を終へて退出する——向つて右より——米内、高橋、水野、末次、小林の各將星）

日本の風景

陸軍士官學校卒業式

—梨本宮殿下台臨—

陸軍士官學校では、十一月廿四日午前十時から、畏きあたりから御差遣の梨本元帥宮殿下の台臨を仰ぎ、第十三期少尉候補生の卒業式を擧行した。殿下には、講演場で優等學生阿葉家正太郎、久保安太郎兩氏の御前講演を聽し召された後卒業學生の戰術、測圖作業及び劍術、馬術を台覽、御少憩後卒業證書授與式場に臨ませられ稻垣校長より夫々卒業證書を授與、次いで優等學生に恩賜品を傳達遊ばされた。(上圖)士官學校御退出の梨本宮殿下

關西婦人國防團上京

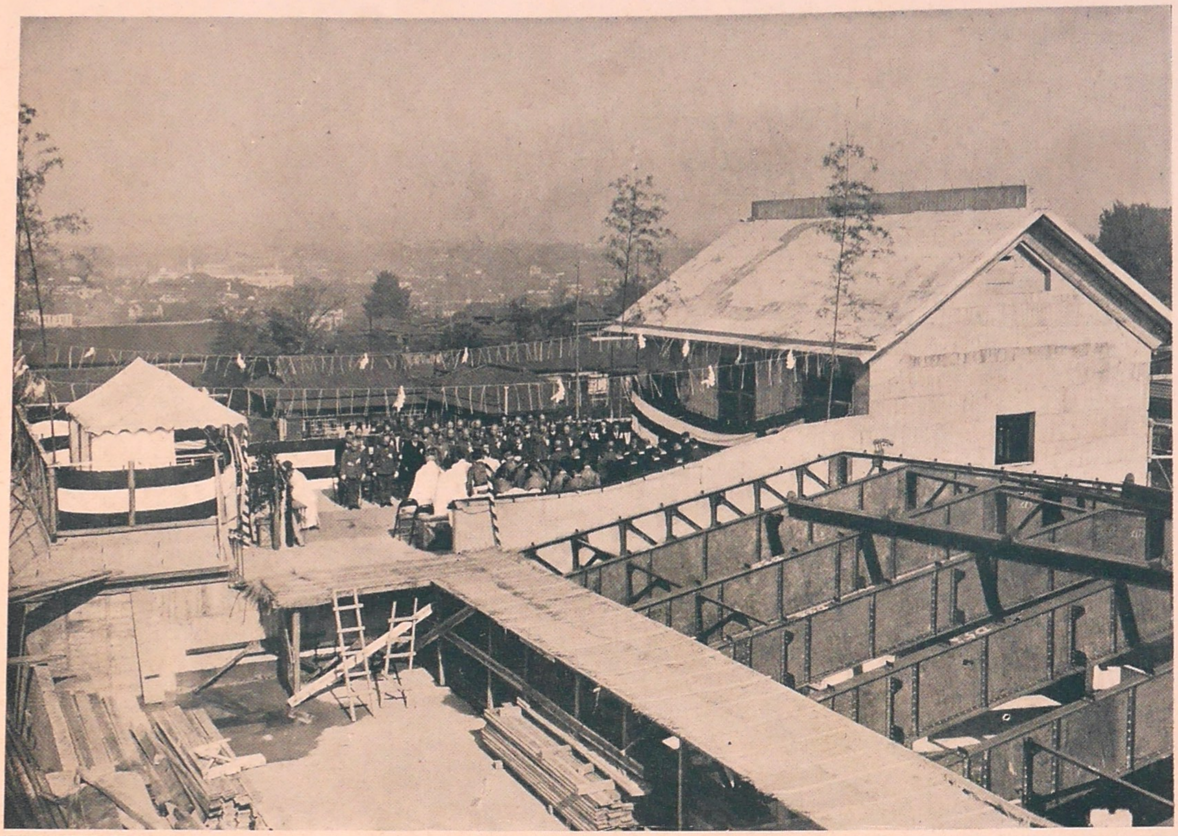
—エプロン姿て—

滿洲事變を契機として我が國婦人の國防觀念が喚起强調され、その結果大日本國防婦人會が生れ、同會は關西本部だけでも會員十萬人に及び眞面目な護國運動を續けてゐるが、今度關東本部を設立することゝなり、十一月廿四日青山會館で盛大にその發會式を擧げた。これに參列の爲め、關西本部の池田千代さん外會員九十餘名は、時節柄何れも白エプロンに襷がけで、十一月廿二日午後二時過ぎ上京、直ちに二重橋前に至り、宮城を遙拜、陸海軍大臣を訪問した。(中圖)宮城遙拜の同國防婦人團(下圖)荒木陸相を訪問した國防婦人團

非常時國軍

國防館の上棟式
—九段靖國神社境内—

國防觀念の大衆化をはかる目的から、曩きに篤志家三谷てい子未亡人が陸海軍に献金した百萬圓の中廿二萬圓を基金として、九段靖國神社立遊就館隣りに起工された國防館は工事も着々進行し、十一月廿一日午前十時半から柳川陸軍次官を始め、軍人や關係者等列席の上盛大に上棟式を擧行した（上圖）はその上棟式



少年航空兵のモダン制服

來年二月所澤飛行學校に入學する陸軍最初の少年航空兵の服裝がきまつた。新時代の少年戰士にふさわしい折襟のすばらしくモダンなもので航空兵は襟にコバルト色の定色とプロペラの徽章で、通信兵は鳶色の定色へ電信機械の模型があしらつてある。（下右）少年航空兵のモダン制服

青年團員の軍事訓練

東京市聯合青年團中から選抜された六百餘名の團員は十一月十九日竹橋の近衛歩兵第二聯隊に於て同聯隊幹部將校の指導の下に非常時に相應しい軍事訓練を受けた。（下圖）實彈射擊訓練をうける青年團員

世界無電の父マルコーニ侯來朝

世界無電の父マルコーニ侯が六十歳の老軀を提げて、十一月十六日遙々伊太利から來た。年齒僅かに十七歳にして無電の發明を志し、孜々として倦まず、一八九五年、廿二歳の時遂に無線電信の發明を達成して全世界を驚倒させて以來四十年、傍目もふらずに今日まで唯一筋に無電の發達に精進して來たマルコーニ侯が『電波は曲る』と發表して再び世界をアッといはせたのがツイ最近のことである。その不撓の努力と不拔の研究心は實に嘆賞措く能はないものである。侯の略歴を記せば――一八七三年イタリーのボロニヤに生れ、ボロニヤ大學を卒業、二十歳の時その研究の結果を携へて英國に渡つた、當時の侯は可成り逆境に在つたが、英國の名遞相プリースと碩儒ウイリアムは、よくこの逆境の靑年マルコーニを援けてその研究を成功せしめた。一九〇二年には遂に太西洋横斷通信に成功し、同七年にはその發明は實用に供され、九年には名譽のノーベル賞を授けられた。一九一四年英國皇帝は深く侯が世界文明への功績を嘉せられて名譽の『ナイト爵』を賜られ翌十五年にはイタリー上院議員に任命され二九年の六月にはイタリー侯爵を授けられた――又今回の來朝に當り、畏き邊りに於ては侯の世界的功績を嘉せられ、日伊親善の思召しを以て勳一等旭日大綬章賜與の破格の御沙汰あらせられた。

〔右頁・上圖〕明治神宮に參拜したマルコーニ侯
〔右頁・下圖〕遞信省大臣室に於て南遞相より勳一等の勳章を傳達されるマ侯
〔左頁・上圖〕芝紅葉館に於ける大倉喜七郎男の招待宴に臨んだマ侯夫妻、左端が大倉男
〔左頁・下圖〕歌舞伎座見物のマ侯、向つて右から梅幸、マ侯夫人、マ侯、羽左衞門

ギャング封じの非常警報器開通

『スハ！　ギャング來！』といつた場合にボタン一つで警察へ通ずる非常警報器が、銀行や、大會社を管內に多數持つてゐる日本橋堀留署に開通した。

これは例の大森ギャング事件に刺戟されて、同署で警報機設置同盟を設け、有志の寄附を仰いで三萬圓の經費をかけて設置したもので鈴木駒込署長の發案になるもの、萬一ギャングに襲はれた場合、三越、三井をはじめ、各銀行、大會社はじめ各交番等約三十ヶ所からボタン一つ押せば、本署の非常ベルが鳴り、直ちに警官出動！といふ仕掛になつたものである。

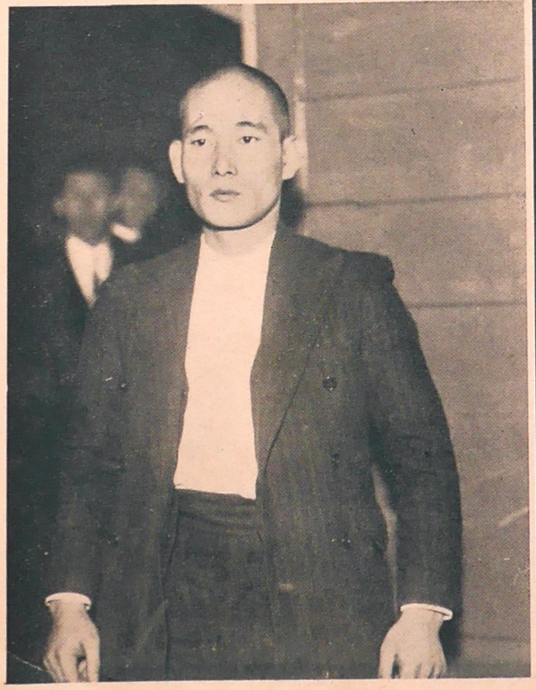
寫眞は堀留署で、非常警報機を檢分する藤沼警視總監（左）と說明する土屋堀留署長

若槻氏上野駅で襲はる……犯人は拳闘の野口進選手

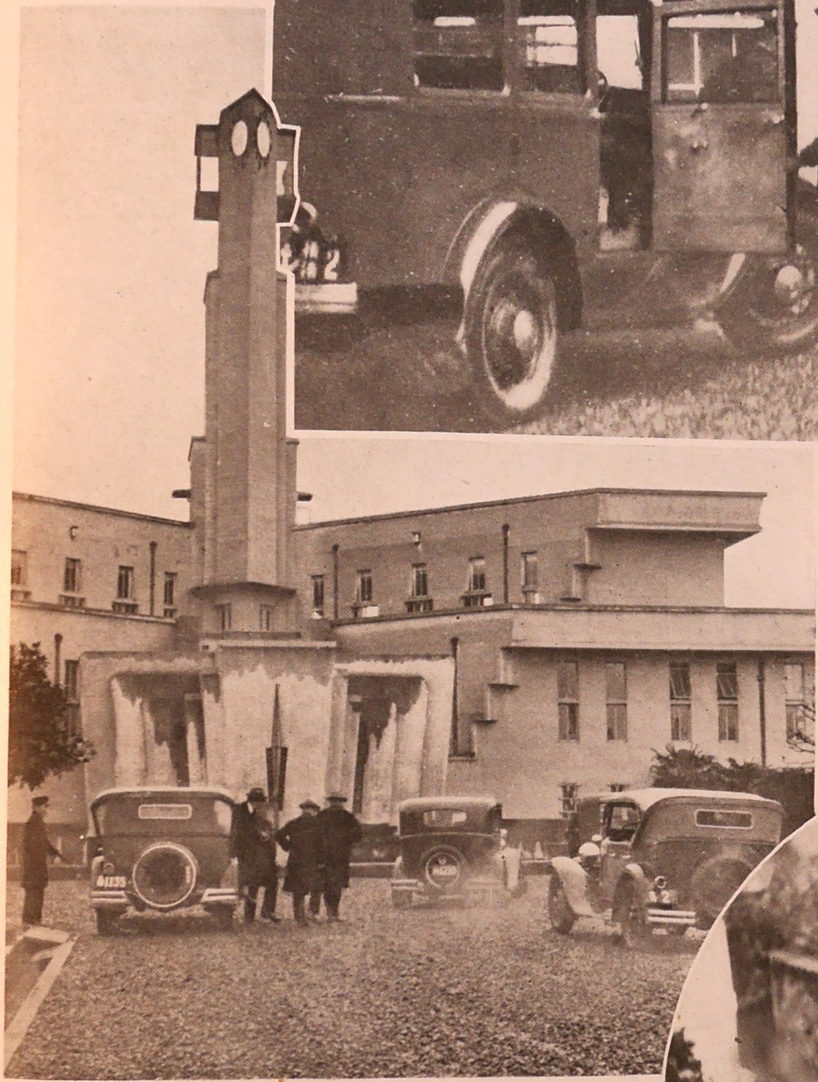
民政黨總裁若槻禮次郎男は、金澤市に於ける民政黨北陸大會に出席して十一月廿一日午前七時上野驛着列車で歸京し・玄關に出やうとした際、突如一兇漢に襲はれた。兇漢は奉書に認めた勸告狀なるものと九寸五分の短刀を右手高くかざして同總裁に近づいたが、警護の上野署員や院外團に取押へられた。この兇漢は大日本拳鬪會所屬ウエルター級の選手として巨腕を謳はれてゐる野口進であつた。この騷ぎを後に同總裁が本郷駒込の自邸に落付くと間もなく、又一壯漢が同邸内に闖入しやうとしたのを警戒中の駒込署員に押へられた。この壯漢は野口の共犯で松井治雄といふ者で、野口が失敗したとみるや、圓タクで同邸に先廻りして襲はんとしたものである。是等の兇漢は五、一五事件や、血盟團事件などに刺戟されて、ロンドン條約問題に憤慨し、當の責任者たる若槻男財部元海相、小山法相等を暗殺する計畫の下に、第一着手として若槻男を襲つたものであるといふ。尙ほ若槻男は幸にも兇刃をのがれ同日夫人同伴、警視廳の特別警備隊や、家の子郎黨に護衛されて伊東の別莊へ赴いた。

（上圖）兇刃をのがれ伊東へ向ふ若槻總裁

（下右）犯人野口進　（下左）共犯の松井治雄



五・一五事件
海軍側判決確定
―六名は小菅刑務所へ
―四名は出所―



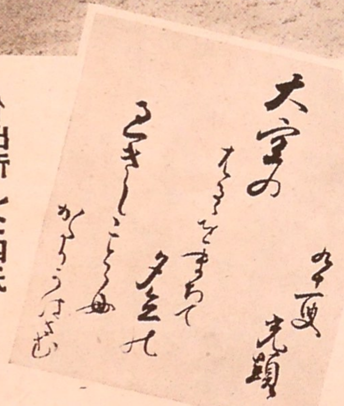
五・一五事件海軍側判決に對する檢察官側の態度は極めて注目されてゐたが上訴期間滿了に先だち十一月十三日上訴權を放棄したので被告十名の判決はこゝに確定、執行猶豫の林、大庭伊東、塚野の四氏は出監命令によつて十三日午後〇時半、一年半ぶりに大津刑務所を出所、古賀、三上、山岸、黑岩、中村、村山の實刑者六氏は既決囚として服役する事となり、十一月十六日大津刑務所より小菅刑務所へ移送された。

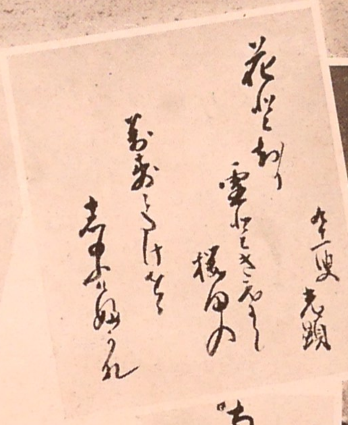
(上圖)自動車を降りる實刑者達(中圖)小菅刑務所へ入る六氏の自動車

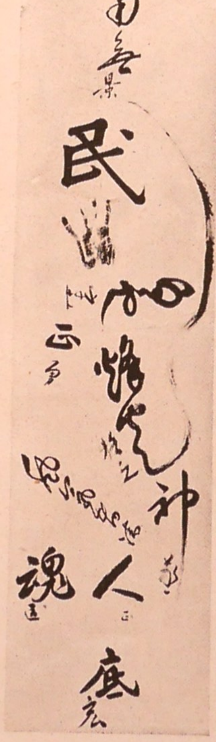
故犬養首相の墓に祈る黑岩少尉の父と兄

山岸中尉の『問答無用射て!』の聲に應じて故犬養首相に向つて致命的の第一彈を放つた黑岩勇少尉の父百崎利三氏と、義兄友田嘉六氏は、特に故犬養首相の冥福を祈るため十一月十一日午前十一時青山墓地の故犬養首相の墓に額づいた。(下圖)墓前に額く兩氏

↑出所した四氏
十三日大津刑務所を出所、明治神宮に參拜した向つて右二人目より塚野、伊東、大庭、林の四氏







田中光顯翁
海軍十將校に色紙を贈呈

田中光顯翁は、多年その持論とする『内大臣廢止論』の聲明、建言の爲め、十一月十一日靜岡縣蒲原の別莊寶珠莊から久方ぶりに上京したが、十二日午前八時、五・一五事件海軍側林辯護士が憂國の十青年將校が、特に翁のために寄せ書きしたものを携へて、青山の邸に翁を訪問したのを、非常に喜び、櫻田事變の志士が、決行直前に寄せ書したものゝやうに大切なものだと大滿悦で、早速筆を執つて十將校に色紙を贈り與へた。その色紙には、執行猶豫となつた四氏には『大空のはるゝをまちて夕立のすぎしこともかたりかはさむ』とあり、實刑の六氏には『花と散り雪ときえにし櫻田のますらたけをしのぶけふかな』とある。明治維新風雲急なるの時、身を挺して坂本龍馬、中岡愼太郎等と共に國事に奔走した往年の志士田中翁と、昭和維新を企圖しその礎石たらんとして遂に儼たる國法に裁かれ囹圄の人となつた青年將校の魂が、書の上で相結ばれたわけである。

(右圖)青山の自邸に於て内大臣廢止の聲明を發する田中翁
(左圖)は十青年將校の寄せ書と、田中翁が贈り與へた色紙

満洲国参議に内定した 矢田スイス公使帰朝

賜暇歸朝のスイス公使矢田七太郎氏は、十一月廿二日午後四時五十五分東京驛着列車で入京した。驛頭には芳澤元外相、重光外務次官他關係者多數出迎へた。尚ほ同公使は、滿洲國參議となる事に内定してゐる。（上圖）は東京驛着の矢田公使（右）と出迎への芳澤元外相及び重光外務次官

新フランス大使 フェルナン ピラ氏着任

マルテル前大使の後任、駐日フランス大使フェルナン、ピラ氏は夫人同伴同國軍艦デュモン、デ、ユルビル號で十一月十六日神戸着、同日午後九時廿分東京驛着列車で入京した（中圖）入京した同大使夫妻

カナダ公使 徳川家正氏歸任

賜暇歸朝中、重要使命を帶びて支那各地を視察して歸京したカナダ公使徳川家正氏は、令孃をともなひ、十一月十四日午前十一時廿二分東京驛發列車で、多數の見送りをうけて出發、午後三時横濱出帆の日枝丸で歸任の途についた。（下圖）東京驛發の徳川公使（左）

滿洲國の新門戸 淸津港

新興滿洲國の隆盛と共に、產業は日に〳〵開發され、物產は眞に無盡藏の觀を呈して來ました。その豐富な產物は、一は吉會線によつて、こゝ朝鮮の淸津港に運ばれ、一は敦圖線によつて雄基へ運ばれて世界各國の販路へ捌かれます。淸津港は北に山を負ひ天與の地位にあつて波の荒い朝鮮の東海岸では得難い良港です。將來滿洲國が益々隆盛となり、その產業が日に〳〵發達し、日滿歐亞の交通が愈繁くなると共に、この淸津港は雄基と共に滿洲國の門戸となり、日滿歐亞交通路の要地となつて、愈々その名が高くなる事でせう。

高砂の松ならねども……お芽出度い縁結びの槲

ドイツ北部のホルスタインスイスにドウダウ山と云ふ、丁度東京の高尾山位の小山がありますが、この山の中腹に一本の大きな槲（かしわ）の木が生えてゐて、この槲の木は世にも珍らしい緣結びの神木として、この附近の靑年男女に絶大な人氣をもつて居ります。――と云ふのは、この木には大きな洞があつて、妻の欲しい、嫁に行き度い靑年男女は、この洞の中へ結婚希望の手紙を書いて入れおくと必ず理想的な夫婦となる事が出來ると云ふのです。即ち手紙を投り込んでから一週間目に再び山へ上り洞の中にある多くの手紙を開封して、自分が理想とする樣な人の書いたものを持つて家へ歸り改めて、手紙の主へ申込むのですが、これが不思議にも男女共その理想が一致して結婚式を擧げる事が出來、而もこの木の仲介で結婚した夫婦に限り何等のつまづきもなく、共白髮の喜びをみる事が來ると云ふ西歐ドイツの『高砂の松』物語。もう百年も前から有名で、この地方の故老夫妻もこの槲の御厄介になつた人が大分ある相です。寫眞は、結婚の恩人緣結びの槲にお禮詣りをする夫婦達。

娘さん達よ!!有閑マダムとなる勿れ……
―一九三四年の良妻賢母はこゝから生れる―

これも又ドイツの話、ベルリン東部のアイゼナッハと云ふ所に今度母親專門學校といふのが創立されました。校長は新國家運動の女闘士グィダディル老女史、そのモットーとする處は、女性尊重の精神を徹底させ、且成年期の女性に、母性の神聖なる使命を教へ、その準備教育をするのですが、只に母親としてのみならず、家庭に於る主婦としての努めを最も解かりよく教へ、實習させるのです、日本にも花嫁學校といふのが最近出來て盛んに花嫁教育をやつてゐるのは非常に結構なことですが、ドイツのこの學校は花嫁などゝ云ふやさしい婦人の教育でなく、赤ん坊のおしめをとりかへ方、お掃除、臺所の水仕事、薪割り、洗濯等、妻としての勞働を教へ、例へ資産家の家へ嫁入つても下らない有閑マダムとならぬ様な精神修養をさせると云ふのですからこれに越した結構なことはなく、日本でも、この國家非常時にあたつて、良き妻、良き母親をつくる爲是非斯うした學校を設立したいものだと思ひます。そして此間中屢々官憲の御厄介になつた様な有閑マダムの一人もゐない様に努力しなければなりません。今の日本は女性たりと雖もダンスや麻雀や映畫見物やゴルフに憂身をやつしてゐる時ではないのですから……

◇實用的なその教授ぶり◇

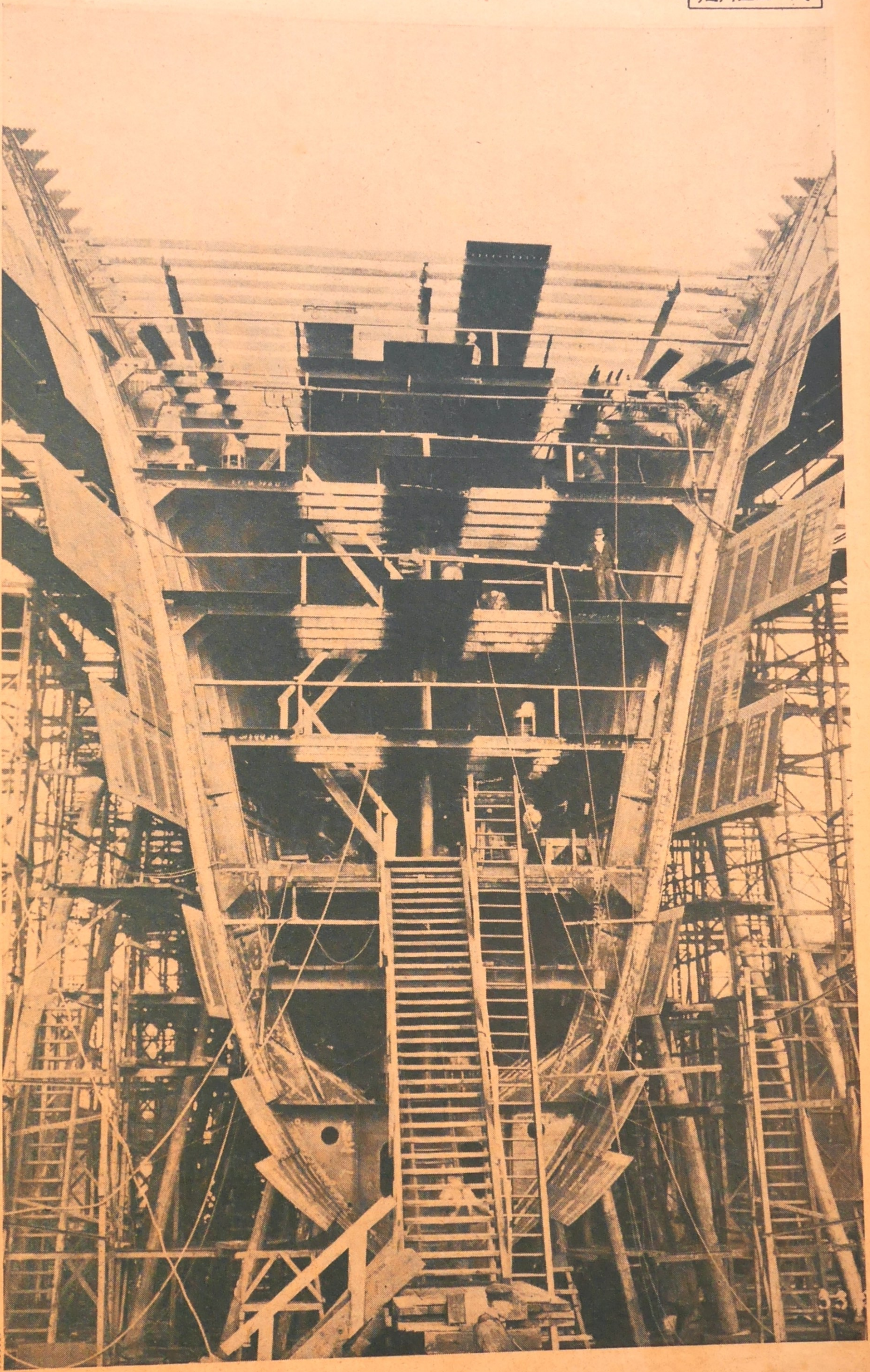
(右頁上)は、まづ妻となり母親となる人々にとつて必要な學問——常識學を敎へてゐる場面(下)は若い娘さんに赤ん坊の取扱ひ方、おむつの取りかへ、抱き方等を敎へる所。(左頁上)は家庭經濟上最も重要な家計簿のつけ方を敎へる處。(下左)は薪割の練習、これからの主婦には斯うした勞働も是非必要です。(下右)家外授業から晝飯にかへる生徒たち。

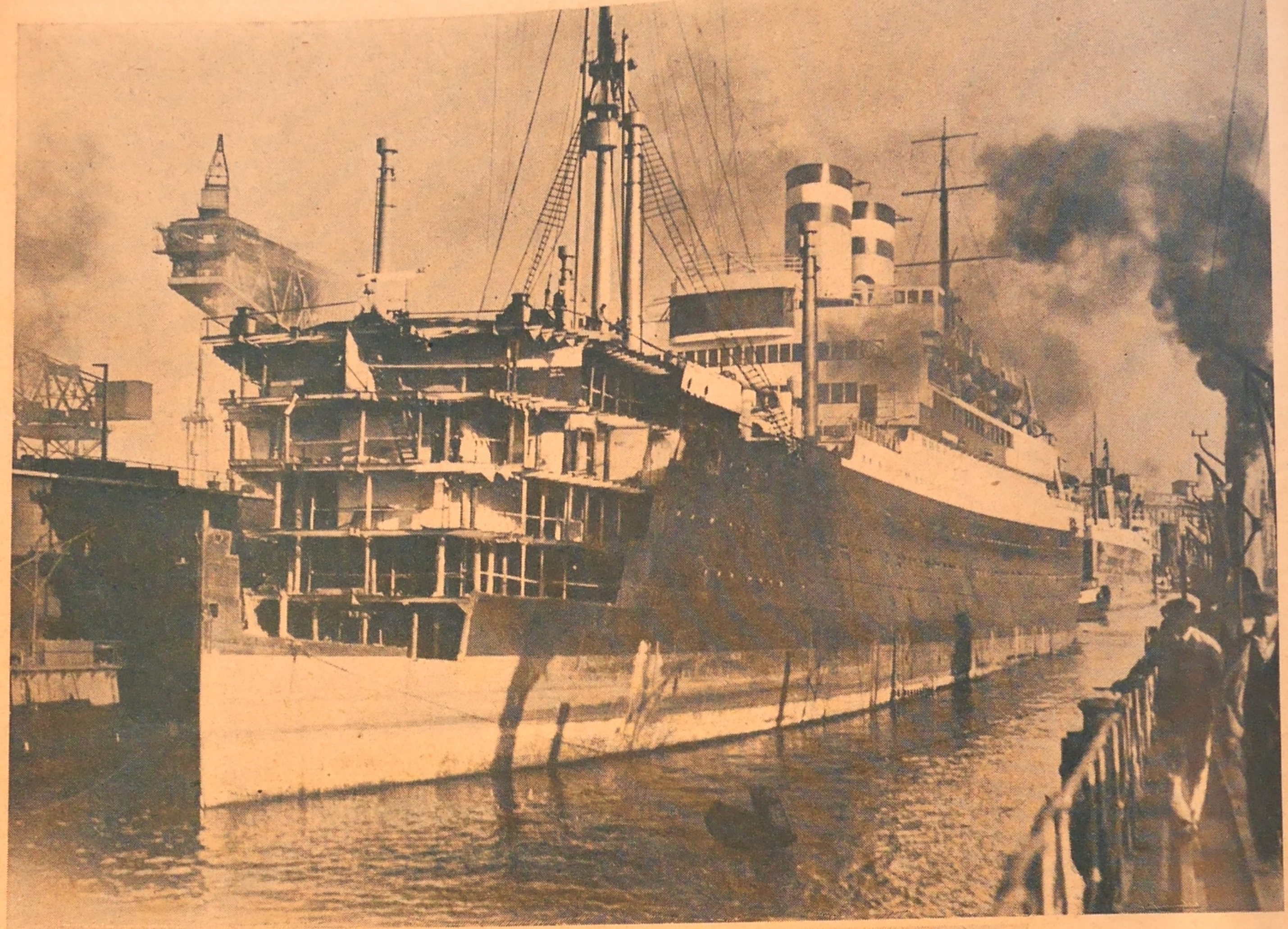
斯くの如く、實用的な、嫁に行つてすぐ役に立つ事を敎へておけば、有閑マダムになどならぬ事は勿論、自分の汚れ物をそのまゝ戸棚の中へつゝ込んで置くと云つた樣なダラシのない御婦人は一人も出來ぬ筈です。この學校、月謝は安く、金持、貧乏の差別なく、又未婚ならば途方もないお婆さんでない限り入校させると云ふ事です。

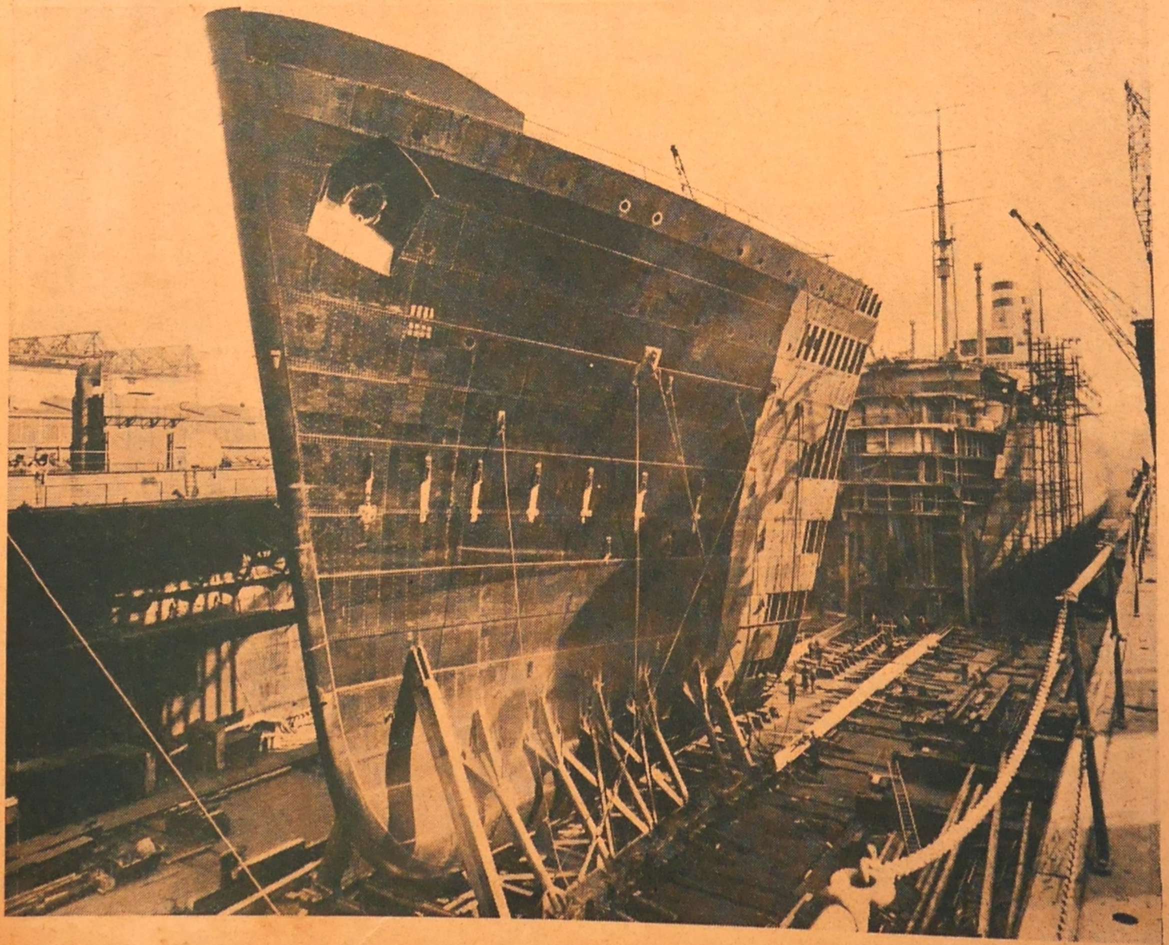
豪華船の繼ぎ足し工事

ーードイツでーー

ドイツのブローム、アンド、ヴオス造船所では、今度ハンブルグーーアメリカラインが決定しましたので、その航路に使用するため現在世界一を誇つてゐるフランスの巨船ノルマンヂー號（七萬三千トン）を凌ぐ樣な豪華船を造船中です。といふと大變に景氣よく聞えますが、この豪華船、實は繼ぎ足しでこしらへてゐるのです。何しろ今世界中は不景氣の大嵐に吹きまくられてゐます。殊に歐洲大戰の結果、莫大な賠償金を背負ひ込んで二進も三進も行かないで困つてゐるドイツで、そんな豪華船を新造するなどゝいふ事は、とても出來ない相談です。所がドイツ人の負けじ魂と、獨特の優れた科學的頭腦は、遂ひに繼ぎ足し造船といふ事を考へ出しました。







こゝに掲げた寫眞は、その繼ぎ足し造船中のところで、（右頁）は新船體を後部から見た斷面、（左頁上圖）は繼ぎ足し造船のためブローム、アンド、ヴォス造船所の浮ドックに入渠したハンブルグ號（左頁下圖）は新船體を造船中の有様で、中央の斷ち切られた所をこれから繼ぎ足すのです。同造船所ではこれからこの方法でドシ〳〵優秀な巨船をこしらへて行くと意氣込んでゐるそうです。我が國などでも、徒らに廢船として港に繋いで醜體をさらして置くよりは、こんな方法で優秀な船をこしらへて行つたらどんなものでせう。

梯子に乗って…三百里…の難路を踏破した珍旅行~~~

無錢旅行、徒歩旅行、駈足旅行、自轉車旅行、自動車旅行——一番平凡な汽車旅行をはじめとして、ナント色々な旅行の多きことよですが、これはまた珍らしい梯子乗旅行、勿論無錢です。やった人はハンガリーの畵家で、遂最近まで、ブダペストの百貨店に美術掛としてつとめてゐましたが、この不景氣でクビになつたがさて、繪は賣れないし、食へないし、と云つた所で獨身者の身輕ろさになにか驚倒的な愉快なことがやつて見度くなり、この梯子旅行を思ひたち、ヅダ袋に一寸した身廻りのものをつめ込んで、イザ出掛んと、勢よく。もブダペストを出發したのです。途中、坂はあり川もある、時には一寸した山も越へればならぬ、又ある時は繁華な都會を歩かなければならぬ——と云つた艱難辛苦を重ね、三百里の道を歩き續けて約二ケ月半の後漸く目的地たるグラーツに到着しました。物見高い世間の人、キタナイなりをした男がキヤタツに跨りながらギゴチない身振りで歩いてゐるのにすつかり喜んで、ある街の大金持などは、斷然面白がつてこの愛す可き畵家フランツ・シュスラーに莫大な小遣を與へたと云ふはなし——失業してもこの位突拍子もない事をする勇氣があれば、食ふに困る所か、充分一家をさゝえる丈の收入になり相です。但し、三百里の長途の間中々に歩き難かつたとフランツ君の告白です、寫眞は三百里のキヤタツ旅行を完成してグラーツに着いたフランツ君。

パリーに出來た珍カフヱー
監獄そのまゝ

世の中も色々な下らない刺戟にあきると隨分馬鹿々々しい獵奇趣味を發揮します。これは今度フランスのパリーに出來たカフエーシンシン、このカフエー、エロを發散するわけではなく、なみたいていのグロでもありません。第一このシンシンと云ふ名稱が、有名なアメリカの刑務所からとつた名で、この刑務所はギヤングの猛惡な奴を投り込む長期監獄その外部もこのシンシン監獄の外觀をそのまゝに借り、内部でお給仕をするボーイ達全部に日本で云ふ赤いおべゝ——受刑者の服裝をさせ、構造もすべて監獄風と云ふ有樣、薄暗い鐵柵の前にテーブルを圍んでウイスキーだかアブサンだかの盃を傾けると云つた珍奇なカフエーであります。(寫眞上)は獄衣をきたシンシンカフエー内部のサービスぶり(下)はその入口、なんとなく薄氣味が惡いです。

安全性百パーセントの空中救助法

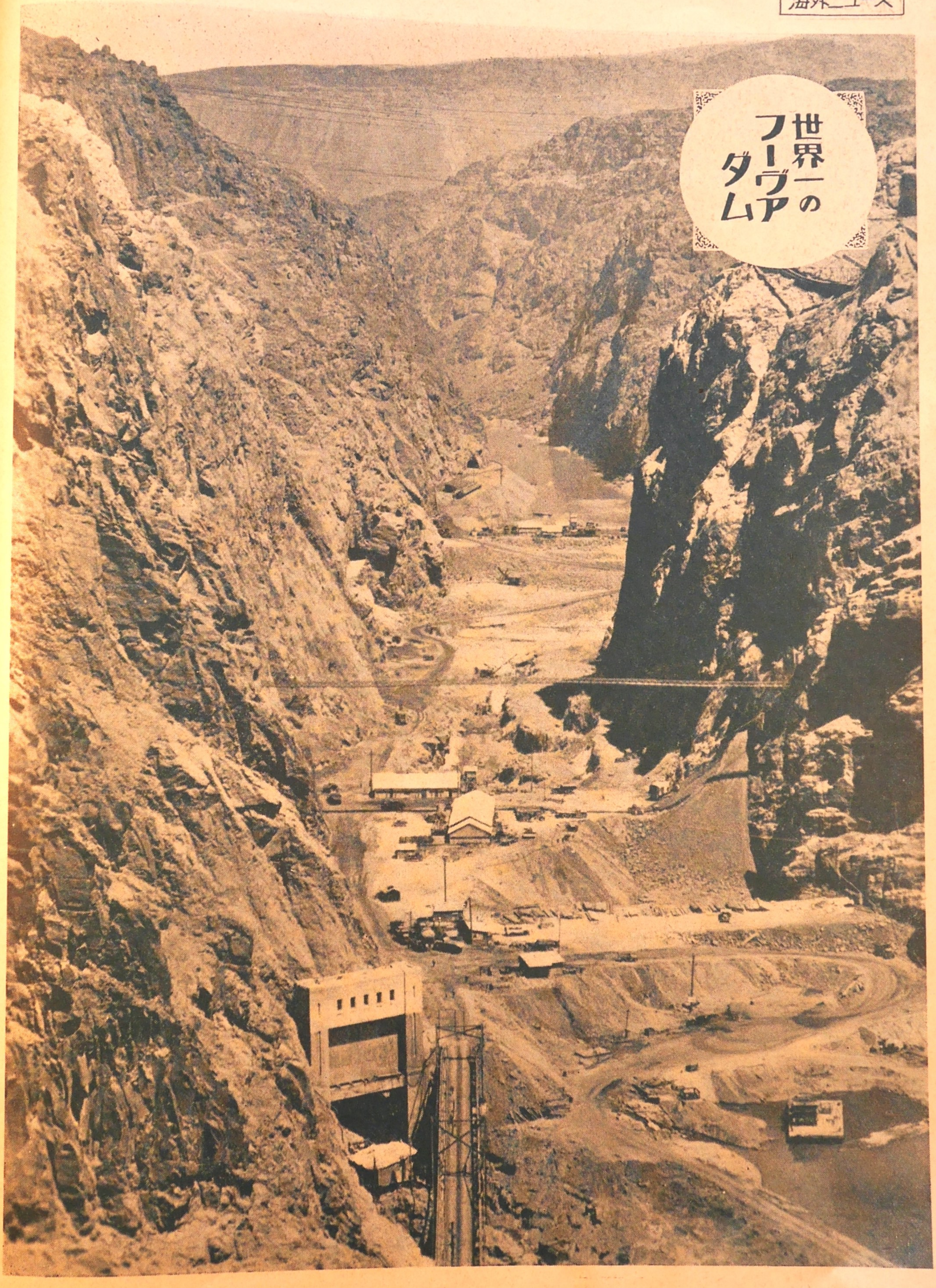
フランスの技師ベナヤード氏は、今度安全性百パーセントといふ空中救助法を發明しました。これは旅客機が飛行中何かの危難に遭ふと、旅客室がそつくり自働的に飛行機の胴ッ腹から飛び出して、それと同時に展かれる落下傘によつて安全に着陸出來るといふ實に理想的なものです。この方法が實用に供される樣になれば、墜落による危險性といふものが全然なくなつてしまひますから、愈々航空界の發達を來すことは勿論で、今に地球の全表面が航空網に覆はれ、汽車、自動車、汽船などゝいふ現在の交通機關が跡を斷つて航空機萬能の時代が來ませう。寫眞はその實驗中の所で、(上圖)は實驗用の飛行機を氣球で空中へ吊り上げる所(下圖)はその飛行機が氣球を離れて下降するところです。

モスコーに冬來る

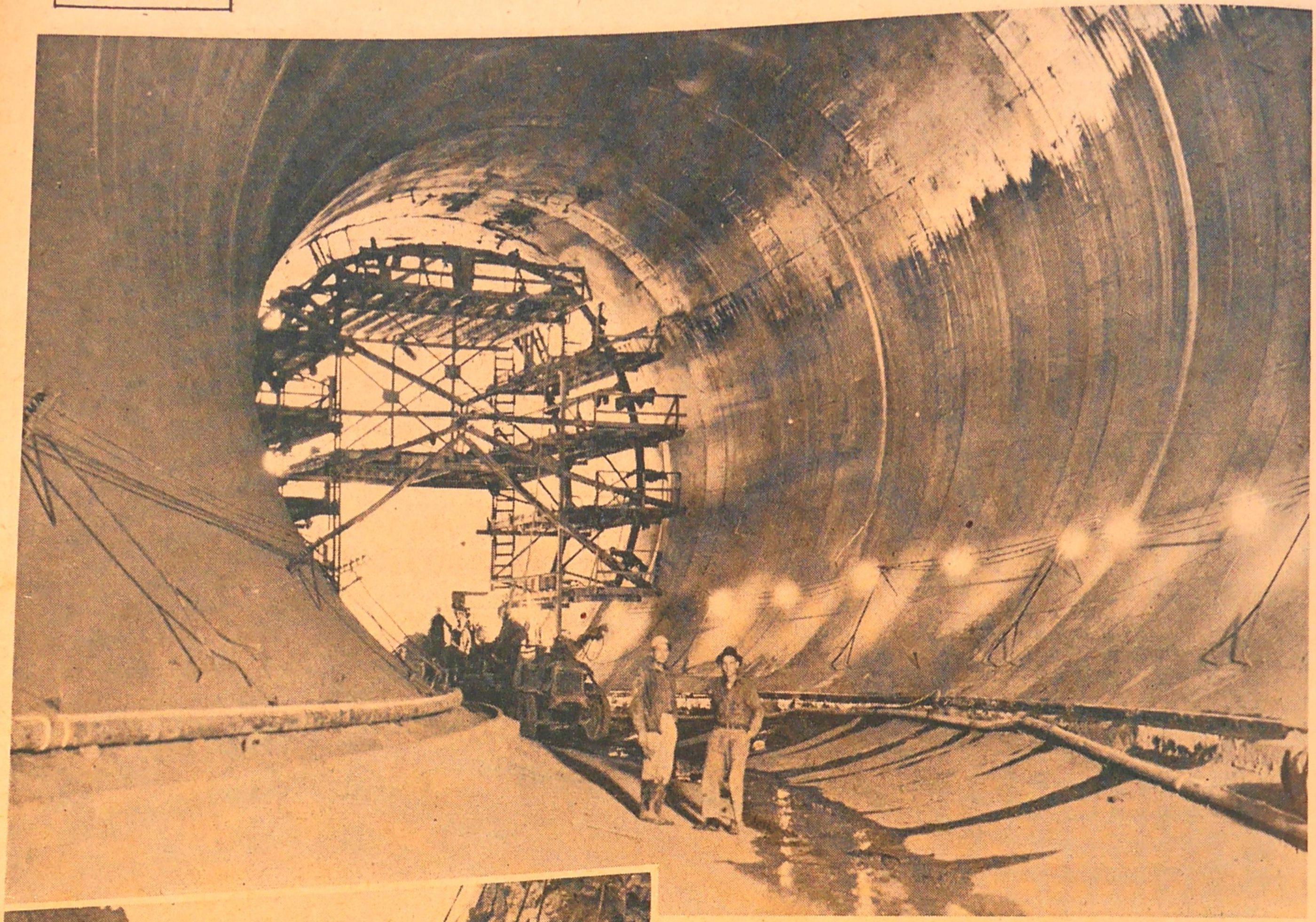
ソヴエート、ロシアの首府モスコーに冬が來ました。こゝは白壁の都と呼ばれ『モスコーを觀ないものは美を知らない』とまでいはれて行人遊客が渇仰の的とする壯麗な都――幾多の政變があつたにもかゝはらず、昔の面影をそのまゝに落付き拂つてゐる有名なクレムリン宮殿（現ソヴエート・ロシアの政府はこの中にあります）を始め、輪奐の美を競ふ七十に餘る大小の伽藍が、粉雪を塔のあちこちに載せて巍然として寒空に聳立する壯美さは又一入のものです。壯麗を以て知られるこの都は、革命後は、いはゆる赤い國の首府となつて、その都市美とは又別の意味からも世界の國々から、あらゆる觀角から注意の目を張られてゐます。

ベルリンに於る 徳川家達公

世界にも比倫をみない三十年間といふ長い貴族院議長の生活をさらりとやめて去る八月歐米各國の政治狀勢視察の身輕な旅に上つた徳川家達公は米國をふり出しに、各國要人と交歡して眞實の日本を紹介し、各國政治の趨向、狀態を具さに視察しつゝ、今歐洲巡歷の旅にあります（本誌が讀者諸君の手に渡る時分には或は歸途につくかも知れません）寫眞はベルリンについた徳川家達公で、左は永井駐獨大使です。


世界一のフーヴアダム

海外ニュース



米國カリフォルニア州の大河、コロラド河には、今世界一といふダム(堰堤)工事が行はれてゐます。この工事は大河コロラド河に大堰堤をつくり、沿岸の水に恵まれない地方に色々の施水を行ふためで、これが完成した暁には、沿岸の不毛地帯も非常な發展を來すであらうといはれてゐます。この工事は數年前に着手され、もう可成り進行してゐますが、何しろコロラド大溪谷を流れる大河に堰堤を造り、河を轉流させたりする難工事なので、まだ〳〵數年の日子を要するであらうといはれてゐます。今までの工事の内での最難工事は、兩岸三百米の斷崖絶壁の間を流れる河を轉流させた事で、直徑約十間、長さ約半里の大トンネルを四ツもこしらへたそうです。このダムは、フーヴァ前大統領の在任中に着手されたもので、フーヴァーダムと名付けられ、その工事費が驚く勿れ一億六千五百萬弗、現在の我が貨幣に換算すると五億四千萬圓といふ巨額に上ります。不景氣だ、失業苦だといつても、流石はアメリカです

(右頁)は工事中のフーヴァーダム

(左頁・上圖)は直徑約十間、長さ約半里といふ大トンネルの入口

(左頁・下圖)は河床から五五〇尺といふ眩暈のする様な高い所に於ける架橋工事です。

テレヴィジョンより明確で早い無線電字器

電送寫眞といふものが出來て、簡單な電報で意味の通じない重用は、長文の手紙を電送する事が出來る位便利な世の中となりましたが、今度ドイツの有名な機械工場、例のシーメンス會社ウェルナー工場の一技師が發明した無線電字器は、テレヴイジョン以上の速力と鮮明さをもつて受信者に手紙がつくといふので科學界に一大センセーションを起してゐる相です。この電字器は寫眞による受送より文字がハツキリと、正しくあらはれ、發信と殆ど同時に受信する事が出來るといふ仕掛、右頁の細長い寫眞中一番上が手紙の原稿、二番目が發信する時タイプライテイングする符號、三番、目が受信された文字で、この符號が電波にのつて受信機に到着、直ちに鮮明な文字となつてあらはれるので

在來の電報の如く符號をそのまゝ符號によつて受信し字にかき直すのでなく、立派な文字となつて來る所に一大特長があるわけです。この電字器は微細な波長さえ決定すれば、單に大電信局と大電信局間の受送丈でなく、田舍の小さい郵便局で取扱ふ事が出來、機械もたいして複雜でなく、タイプライターに電波を利用した様な非常に簡單な設備であるから特殊の事業をやつてゐる人、新聞社通信社などには自由にとりつける事が出來ると思ひます。又非常に遠距離がきくと云ひますから、これが完成された曉にはドイツの山村と日本信州の山奥との間でも速座に手紙のやりとりが出來ると云ふ様な便利な世の中になる事でせう。（寫眞右頁は發信の場面、左頁は受信してゐる所）

美はしい山国の風習

一村家族の如く助け合ふ木材の運搬祭

（上圖）全農民の手で出來上つた山の家。（下圖）木材運搬の場面。

山また山の幽寂境、スイス、ロッチエスタール部落のげにも美しい人情物語。この村は一部落宛ら家族の様な親密さをもつて生活して居ります。『萬人は個人の爲に個人は萬人の爲に……』努力を惜しまぬと云ふのが、この村のモットーで、村の中の誰かゞ新しく家を建築すると云へば老若男女、全村擧つてこの建築主の爲に働くといふのです。即ち木材の伐り出しから、運搬一切、家屋が出來上るまで建築の手傳もするわけですが彼等はこの勞働を唯一の樂しみとして、木材を運搬する日は特に『木材運搬祭』と名付け、若い男女は美しい晴衣を着でこのお祭に列する習だ相です。一年中クリスマスの他は何一つのお祭もない山峽の鄙村とあまりにも事の多すぎる、あまりにもトゲ〳〵しい餘裕のない、都會生活と、ナントその人情の異つてゐる事でせう。近頃の人間ももう少し心に餘裕を作つて、少くも他人が家の普請をする時に材木を運んで手傳ふ位の雅量と裕意がなければならぬと思ひます。

往年の世界一美人、娘をつれて再登場

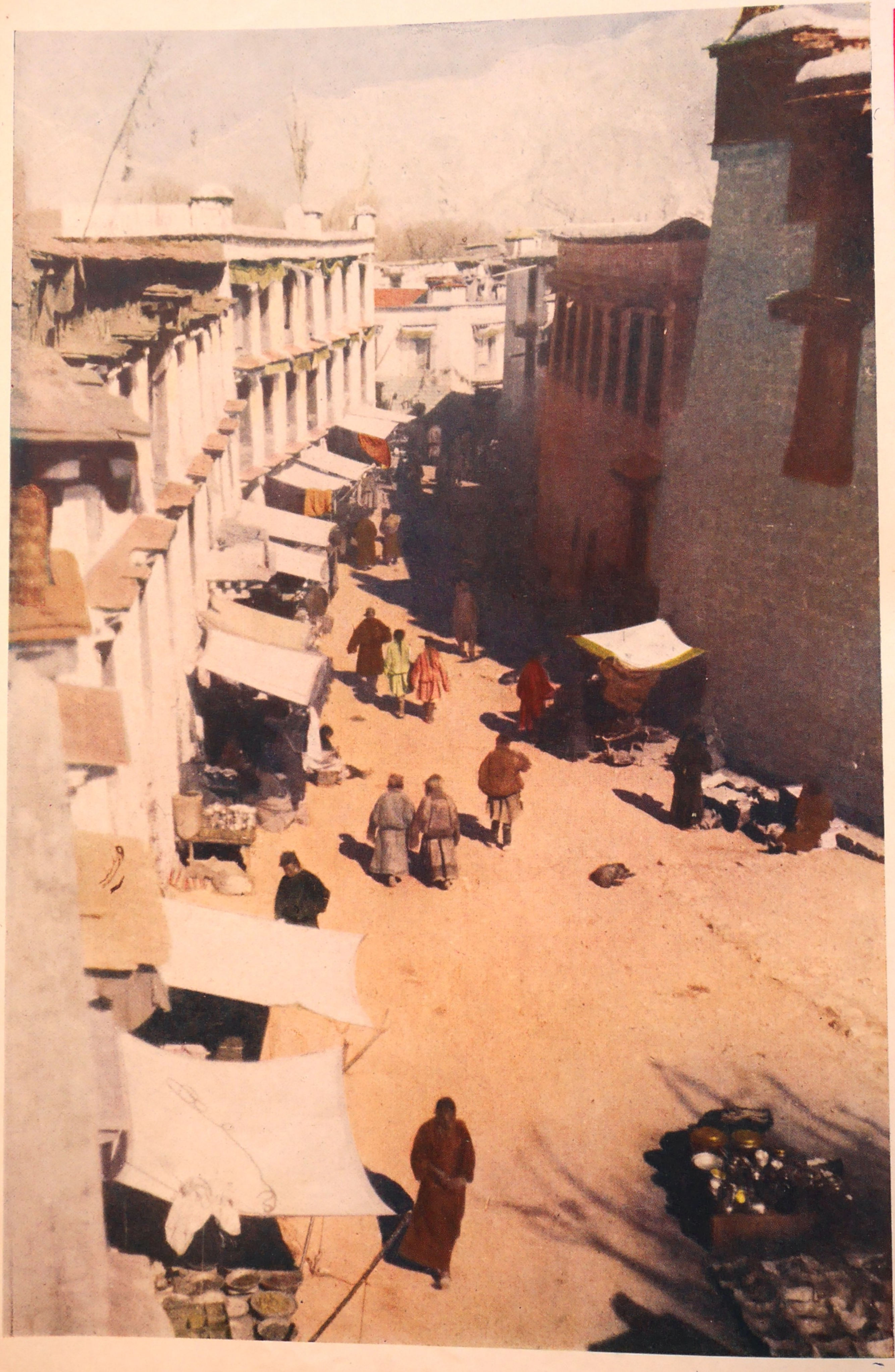
一八九三年といふと、今から凡そ四十年の昔、南米コロンビヤで開かれた國際博覽會の美人競技において、美事世界第一の美女たる榮譽を獲得して、白色金髮の美人連を啞然たらしめ、有色人種のため萬丈の氣を吐いたアメリカインディアンの酋長夫人マリー・ハイリー・チン・アイロンロードさん、今は齡六十を越へて、しはだらけの顔、白髮頭で、華やかなりし昔を今にするよしもない有樣ですが、今度は是非とも自分の愛娘に世界一の美人たる榮譽を獲さしめんと、先達中シカゴで開かれてゐた萬國博覽會の美人競技に、長女エロー・ローベ・ウーマンを伴つて出現しました。小麥色の肌、黑褐色の髮、野性的で而も端正な容姿、——色は黑いが南洋ヂャ美人——どころでなく、正に、再び母子相次いで世界一の美人にならんず勢でありましたが、惜しくも三等になつて、マリー婆さん口惜しがるまい事か『わたしが若ければネエ……』と涙をこぼしながら、娘の手をひいて歸つて行つた相です。寫眞は左がマリー婆さん、右がローベ孃。

展覧會の街頭進出

この世界的不景氣――ことに美術にたづさわつてゐる青年などは生活難――また生活難の有樣で、展覽會で一度や二度特選になつたつて、とても糊口をみたす丈の向上は出來ません。しかも多くの美術團體××會○○展は續々經營困難で解散すると云ふ悲運、此處はアメリカのシカゴ若い美術家たちはこの生活難を乘り切る可く、展覽會を街頭に進出させ路上に作品を陳列するといふ一案をこゝろみました。しかし、之も東京の銀座などにある無名の漫畫家が街頭で似顔をかくのとはちがつて、相當有名な人も加つてゐるのですから、入選したもの丈の作品が街頭に陳列されると云つたわけで、矢張入選難ははげしく相當の努力は要るわけですが、賣約の成績などは中々よろしいとの事です。どうです、帝展あたりが街頭に進出したらナント愉快でせうに……

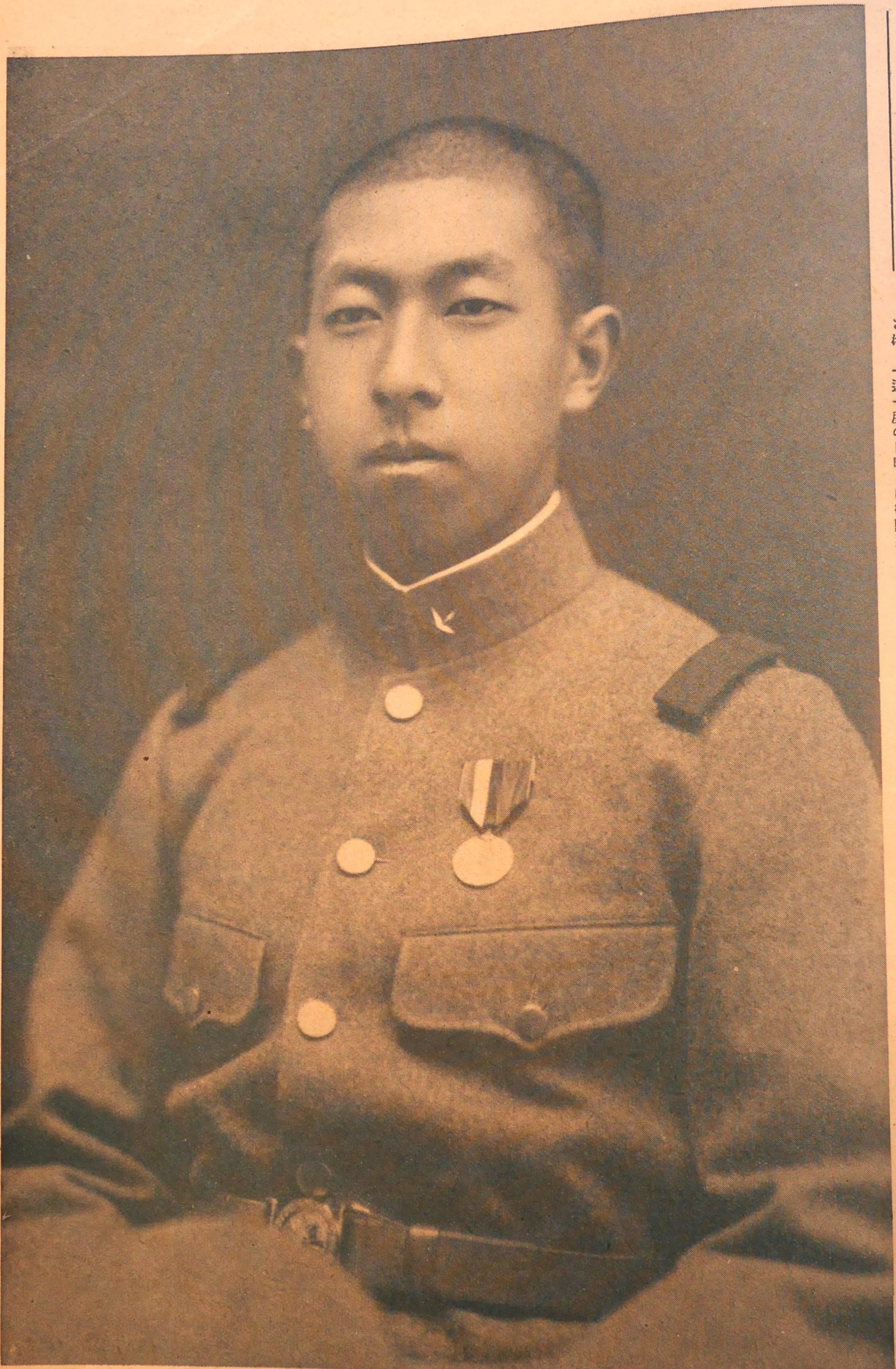
田舍・廻りの移動圖書館

フランスのパリーに住んでゐるリテラと云ふ青年、彼のお父さんはフランスでも有名な私立圖書館長でしたが、相場で失敗したかどうか家財をメチヤ〱にして遂々自殺してしまつた。そこでリテラ君は立派に父の遺志をつぎ……と云つても、大きな圖書館を經營する事なんか思ひもよらず、家庭榮え居りし頃の自家用自動車を圖書棚に改造しダンケルク・デユヴイル等と云ふ田舍村落をあるき廻はつて、極安の觀覽料で、元自分の圖書館にあつた殘部書籍を觀覽せしめてゐますが本を讀みたいと思つても手に入らぬ農村の青年など大喜び、村長もよい教育になると大いに歡迎し大繁昌を示してゐると云ふ事です。



西藏拉薩市街の歳末氣分

秘密の國西藏の首都拉薩（ラッサ）の歳末です。ひと頃英國の後押しで獨立するとか傳へられて、この秘密境に風雲の捲き起るを想はせましたが、そういふ事も起らずに平穩に年を過す事が出來ました。そして依然として西歐文明の浸潤しない昔ながらの風俗習慣を街上にみます。不揃ひの切出石で屋壁を頑丈に積み上げ、小窓の多い家屋が雜然と並んだ街を異樣な人々が通ります。太くて長い筒袖の着物を着て兵兒帶をしめたもの、一種の辮髮で無帽のもの、有帽のもの、革又は毛織の長靴を穿いたもの、首や腕に玉石の飾りをつけた女、深紅の法衣の僧侶、横行する汚い野良犬、荷を運ぶ驢馬、小さい黒帽のネパール人等々が混然雜然あわたゞしい歳末の街を行く光景は實に拉薩でなくては見られぬ異樣なものです。



第十八回の御誕辰を迎へさせられた
澄宮殿下

澄宮崇仁親王殿下には、十二月二日滿十八歳の御誕辰を迎へさせられた。

殿下には、目下陸軍士官學校に御在學中で日夜軍務に御精勵あそばされ、一週一度の日曜日に御歸還にならせられても、御休養のお暇もなく直ちに校舍へ御引返しになつて御勵みと洩れ承る。尙ほ殿下には、明春四月からはかれて御希望であらせられる騎兵科に御配屬の御豫定である。

（寫眞は殿下の御近影……十二月一日御殿より御貸下げ）

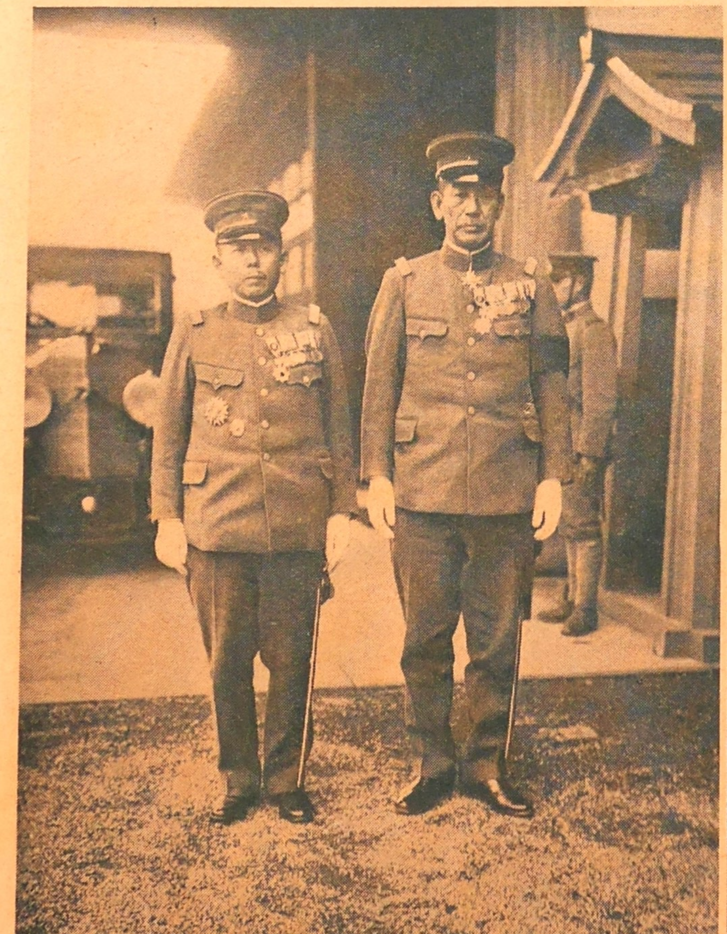
福建の獨立運動は愈々具體化して十一月廿日遂に福州に於て獨立宣言をなし李濟琛氏を主席とする『人民革命政府』の成立をみた。中央委員には、李濟琛、陳銘樞、蔣光鼐、蔡廷楷、陳友仁、徐謙、戴戟、黃祺翔、李章達、何公敢、梅田龍等がゐる。この新政府の將來の發展とか永續性などは現在の所全然見透しもつかないけれども、とまれ國民政府に向つて爆彈を投じた事は支那政治上劃期的なものといへる。寫眞は獨立當日の記念撮影で、(1)陳友仁(2)蔣光鼐(3)翁照垣(4)徐謙(5)李濟琛(政府主席)6蔡廷楷(十九路軍長)(7)戴戟

滿洲國では、新京吉林間の道路建設に着手してゐるが、この工事には新鋭機械を驅使して、日々六百米の道路を建設して行くといふ物凄い勢である。寫眞はその道路工事である。

海軍經理學校では、十一月廿一日午前十時半から學生卒業式を擧行した。寫眞は恩賜品を拜受した優等學生で——向つて左から——南了、高橋甫、石井次男、笠神佐一郎の諸氏である。

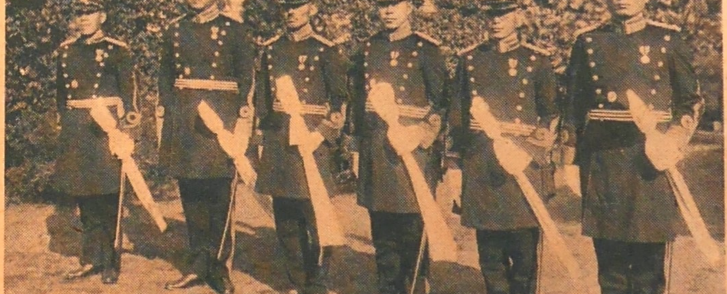
菱刈關東軍司令官は、管下各部隊を巡視のため、幕僚を從へて十一月廿四日新京を出發、同日午後三時四十六分錦州に到着した。寫眞中央が防寒帽防寒靴姿の軍司令官である。

日印會商は、去る九月廿三日當時インド政廳の暑期所在地であつだシムラに於て開かれ、廿五日に本會議を開きこゝで協議する事一ヶ月、十月下旬政廳の寒期所在地なるニューデリーに移し、それからも約四十日間を經過し今や（十二月五日）既に七十日と云ふ長交渉となつてゐるが成立するか破裂するか本誌が讀者諸君の手に渡る頃はその結果も分ることと思ふ（寫眞は十月卅日デリー商務省に於ける本會議で右側が印度側で右より七人目が印度側代表ボアー氏、左側が日本側で左から四番目寺尾その次澤田兩代表である。



新たに滿洲の○○○○隊司令官に補せられた佐藤三郎中將と武田秀一中將は、十二月四日午後二時宮中に參內、天皇陛下に拜謁仰付けられた（寫眞は參內の佐藤（左）武田（右）兩中將である。

デリーの日印通商會議に對し發送する帝國政府の最終訓令を作成すべき官民全體協議會は、十一月一日外務次官々舍に於て開催、最終訓令を決定して澤田代表宛發送した。（寫眞はその會議）



陸軍大學校では、十一月廿九日畏くも聖上陛下の行幸を仰いで卒業式を擧行した。寫眞は恩賜の軍刀を賜つた優等生で——向つて右から——藤井、櫻井、於田、島貫、牧、各大尉と山本中尉

ウインタースポーツ……

ラグビー、蹴球
バスケツト競技

(1)早立ラグビー戦十一月十一日神宮競技場、前半十五分(2)早帝バスケツト戦――十二月二日神宮競技場前半早大ゴール前(3)早慶蹴球戦――十一月廿六日神宮競技場、後半戦(4)早慶ラグビー戦――ファンの人氣を集めて十一月廿三日神宮競技場に開催、早大勝つ

1

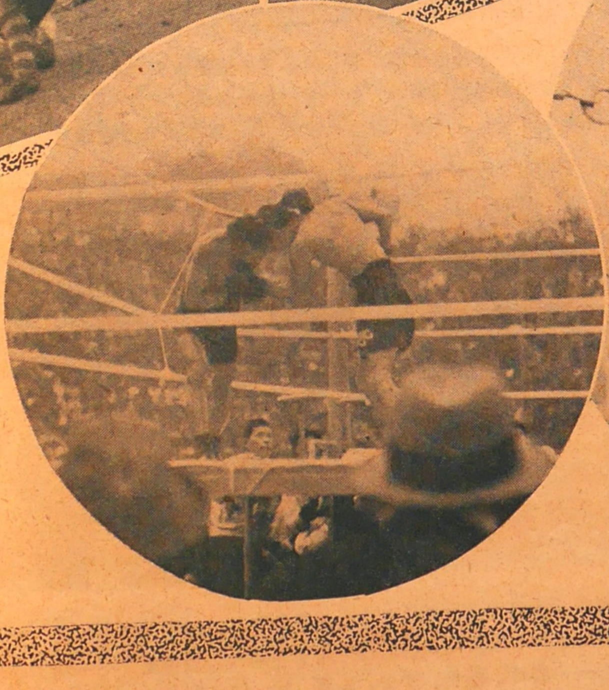
2

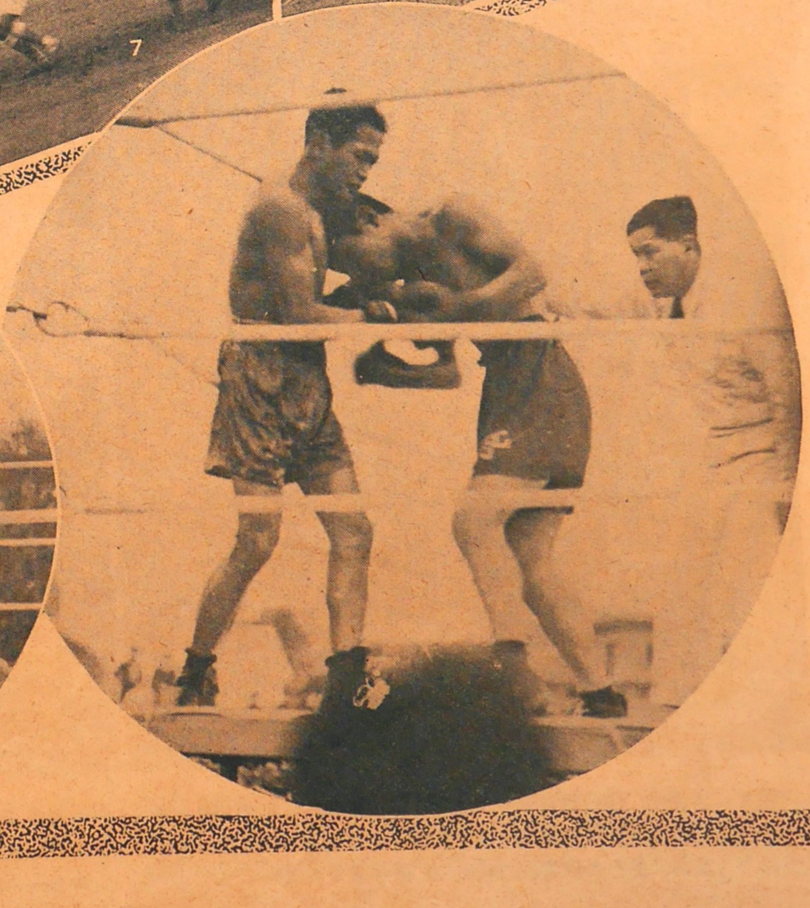
3

6

7

8





トミー歡迎拳鬪(下右)
ファン待望の世界バンタム級の王者ヤング

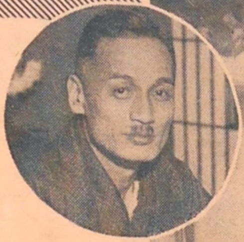
——後半廿分の頃(5)同後半廿五分、早大山本ゴールバーの直下を鮮やかにトライの直前(6)商法ラグビー戰——十一月十七日神宮競技場、前半商大ゴール前(7)京大對關學ラグビー戰——十一月廿六日甲子園、前半五分(8)京大對同大ラグビー戰——十二月三日花園グランド、前半戰(9)早明ラグビー戰——十二月三日神宮競技場前半五分(10)同前半十七分、

トミー選手對堀口選手の八回戰は十一月廿六日田園調布球場に於て行はれた。結果は兩雄相讓らず引分けとなつた。(右)堀口の猛擊ぶり(左)はトミーの攻擊

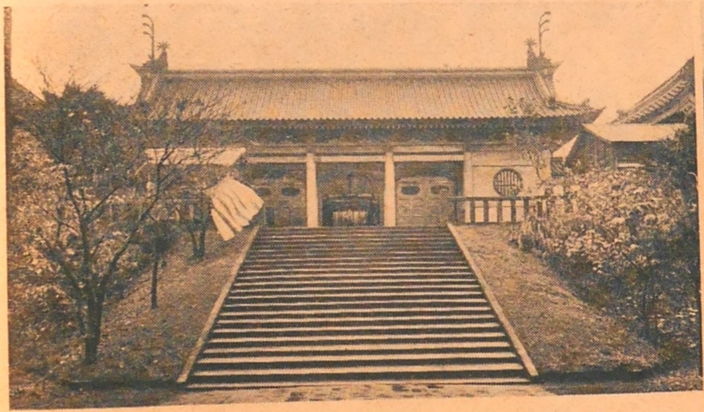
府中の初競馬(左上)

工費百萬圓、東洋一を誇る府中の東京競馬はこの程完成、十一月十八日華々しく秋季競馬を開幕した寫眞はその蓋明け競馬

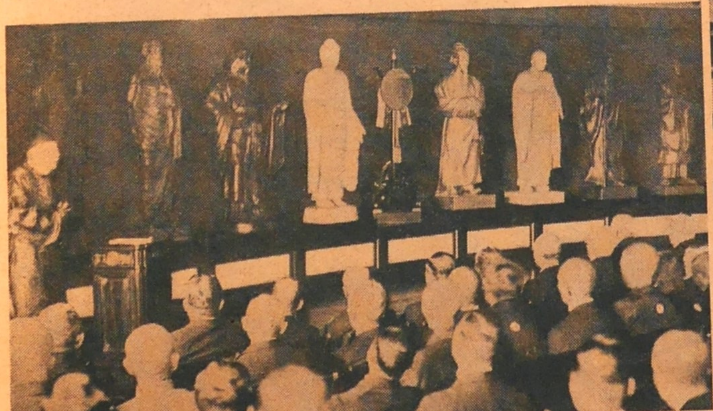
五、一五事件 民間側 論告求刑



陸海軍側と共に、昭和維新を企圖し、『非常時日本』を國民に深く認識させた歴史的事犯五・一五事件の民間側――農民決死隊並に外廓行運に従事した大川周明博士等十九名――に對する論告求刑の公判は、十一月卅日午前九時十分から東京地方裁判所陪審第一號大法廷に於て神垣裁判長、八木田、長野兩陪席判事木内、吉江檢事係りの下に行はれた。寫眞は公判廷に於ける木内檢事の論告求刑、左上は木内檢事



大震災で破壊された本郷湯島の聖堂は、昨年財團法人斯文館を主とする聖堂復興期成會によつて復興起工中であるが、十一月廿七月午前十時から厳かに上棟式を擧行した。寫眞は復興する聖堂

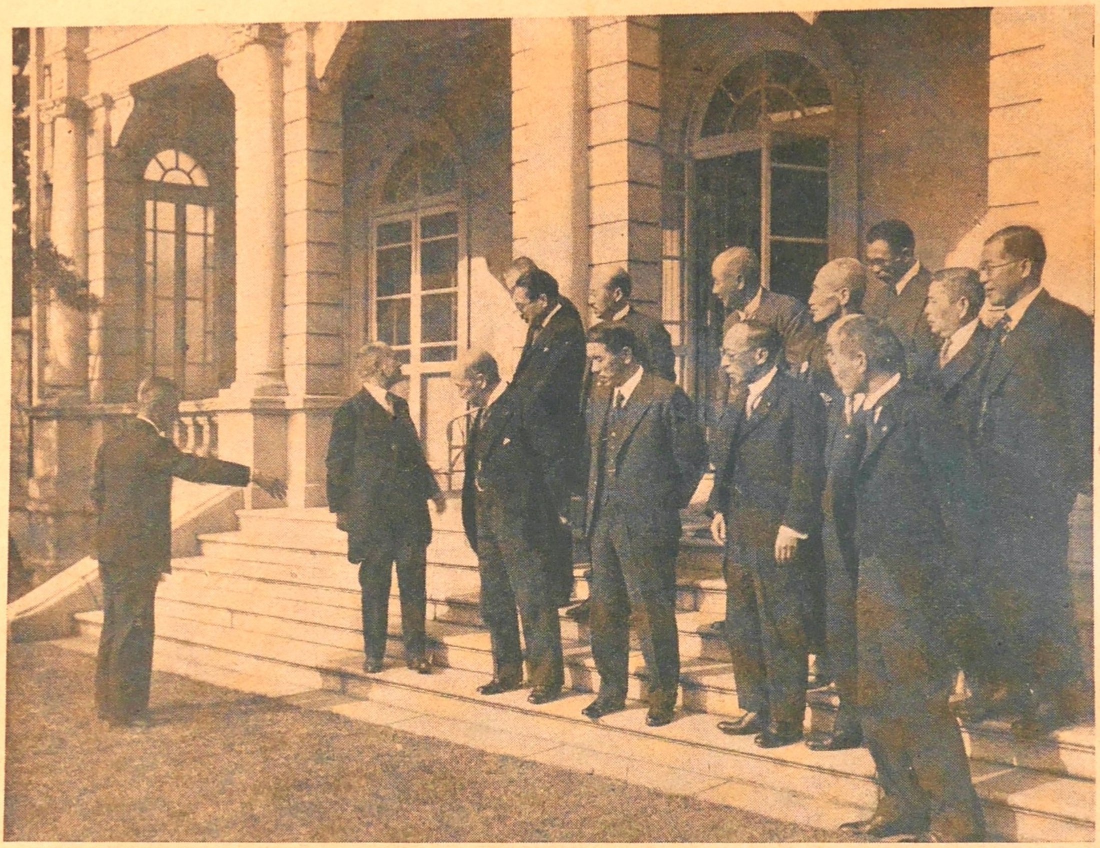


國民同盟總裁安達謙藏氏が横濱の本牧に建立中であつた八聖殿はこの程完成し、八大聖人の像も安置され全く竣成したので、十一月十三日朝野の名士多數參列の下に開殿式を擧行した。寫眞正面八聖人の像で、左端立てるが安達氏

國民精神作興に關する詔書渙發十周年を記念して、平沼騏一郎男を團長とする財團法人修養團では十二月三日午前九時半から都下の團員六千名を動員して盛大な記念式を行ひ式後宮城を遥拜した。寫眞は團員の宮城遥拜で先頭が平沼團長

日支關係打開の懇談會
―外相官邸―

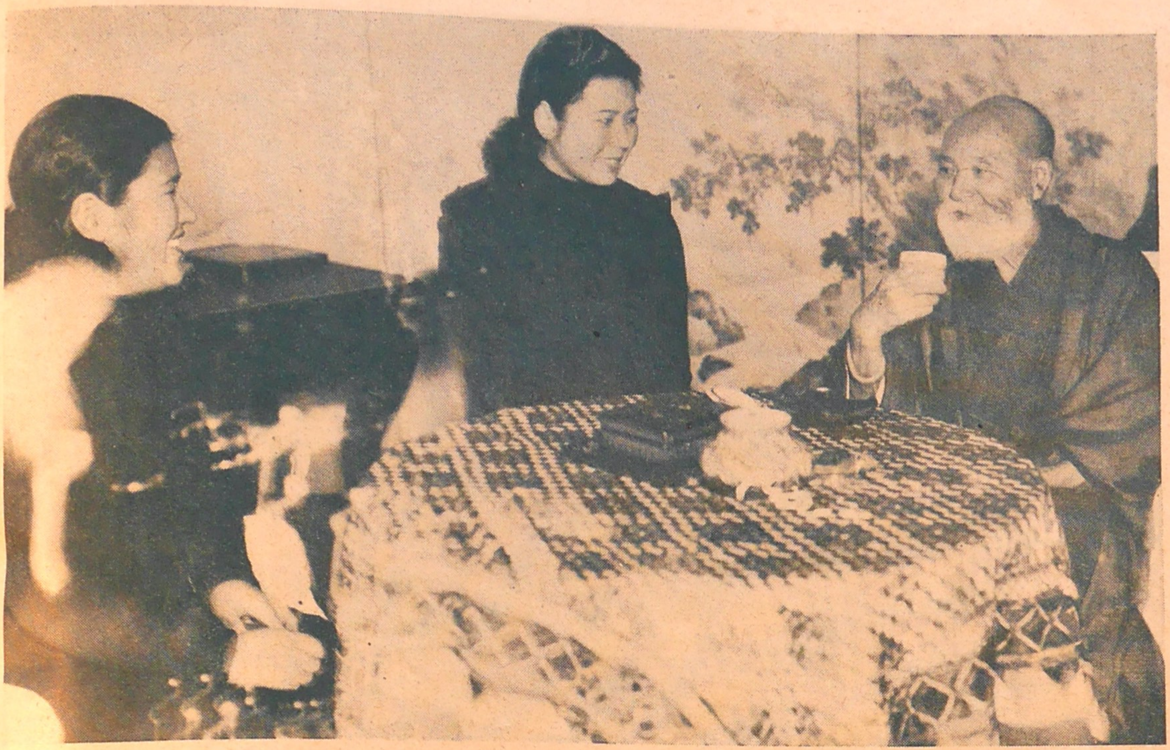
廣田外相は協和外交の基礎工作に積極的に乘出してゐるが、十一月廿九日午後零時半から外相官邸に對支文化事業調査委員を招待して、全面的に日支關係の打開促進を圖るべく懇談會を開いた。參集の人々は入澤博士、服部博士、正木直彦氏、小田切萬壽之助氏、伊藤文吉男等の學者、實業家に、廣田外相、重光次官以下關係者、藤井大藏省主計局長、河田拓務次官、栗屋文部次官等廿八名で、對支問題に對する自由討論を行つた。寫眞は外相官邸に參集の人々、



我が軍部及び外務畑けの夫人と滿洲國貴婦人の暖い會合が十二月二日麹町富士見町の國際會館で催された。

新任駐白大使有田八郎氏は、赴任するに先だち、滿洲國並に支那の最近の事態を視察するため約三週間の豫定で十二月一日東京驛發出發した。（寫眞は出發する有田大使）

滿洲で嚴寒と戰ひつゝ活躍してゐる我が將兵慰問のため陸軍省から派遣の演藝慰問使落語家蝶花樓馬樂と講演師一龍齊貞丈の二氏は十一月十五日東京驛出發した。（寫眞右が馬樂、左が貞丈）



ホット一息ついた各閣僚
―揉みぬいた予算問題円満に解決して―

齋藤內閣の危機迫る！とまでいはれた明年度豫算問題も、危機一髮といふ瀬戸際で十二月二日漸く本極りとなつた、各閣僚まづ〳〵一息ついたといふものだ、何しろ最初各省から提出された新規要求は十四億といふ巨額に達しその內大藏省が承認したのが六億二千萬圓、これが豫算閣議の原案となつたところが非常時局に際して各省は强烈な復活要求をなし、殊に海軍側は一九三六年の危機を控へて居る事とて頑强な要求をなした。一方圓滿濶達な高橋藏相も、國家永遠の財政的立場から猛烈に頑張つたが、更に八千九百萬圓の復活は容認する事となつた。（この內四千四百萬圓は海軍費の復活）それでも海軍側は容易に承服しなかつたが、結局に於て海軍費を更に一千五百萬圓增加する事となつて漸くにして政府部內の妥協がなり揉みぬいたこの豫算問題も鬼がついたわけである。かくて決まつた總額は廿一億一千一百萬圓、本年度當初の豫算に比べて六千二百萬圓の增加となつてゐる。

（上圖）重荷をおろしてホット一息の高橋藏相

（下右）仲よく官邸を退出する荒木、大角陸海軍兩相

（下左）重苦しい氣もサラリとゝれて先づ髮の御手入れの齋藤首相――（華族會館の床屋で）

美術の秋を遺憾なく鑑賞せしむる大畫錄

「秋の美術展號」前後篇と「帝展號」を併せ備へれば、一九三三年の美術の秋をそのまゝ保存する事が出來ます。

帝展號

秋の美術展號 前篇 後篇

鑑賞、保存に
美術愛好家必備の大畫册

國際寫眞情報の「秋の美術展號」前後篇と、「帝展號」は、共に美術愛好の士を恍惚たらしむるもの、帝展、院展、二科、青龍社、美術協會等優秀作品を悉く收藏し秋の美術書錄として、最も内容の充實せるものである事を確信します。

定價兩號共 壹圓貳拾錢
送料 内地四錢 海外廿四錢

昭和八年第十四回帝展の收穫一卷に集る！

本誌御購讀の方へ

◆本社名を以て金錢上その他如何はしき申出を爲した者がありましたら、御手數でも一應本社へ直接御照會下さるようお願ひします。近來本社名を利用して種々不都合をなすものがある由ですから特に御注意下さい。

◆本誌配本上其他に付不都合の行爲がありましたら、東京市内は表紙取扱欄に押捺してある番號により、又地方は必ず住所氏名を記載した取扱者の印を押捺させることになつてゐますからそれによつて直接本社へ御申出で下さい。

◆本誌は遲くも毎月十日迄に配本せぬような場合は本社へ御通知下さい。早速便宜の方法で御送りします。

◆本誌は書店で賣らぬことになつてゐますから購讀御希望の方は直接本社に御申込下さるか、全國各地の支局に御申込下さい。

◆本誌の誌代はすべて配本の際引換えに頂く規定になつてゐますが、前金を御拂込下さる際は直接本社宛に願ひます。本社宛直接御拂込以外は一切責任を負ひませんから御承知おき下さい。（御送金は振替東京四五〇〇番を御利用下さることが一番確實です）

定價

一部 金六拾錢
一月極 金五拾錢 ｝送料二錢
一ケ年分 金六圓
海外一部送料 金十錢

無斷轉載複製を禁ず

昭和八年十二月二十日印刷納本
昭和九年一月一日發行

東京市麹町區内幸町一ノ三
發行、編輯兼印刷人 石原俊明

東京市麹町區内幸町一ノ三
印刷所 國際製版印刷所

東京市麹町區内幸町一ノ三 太平ビル別館
發行所 國際情報社
振替東京四五〇〇番
電話銀座（一）八六（一）六〇六

大正十五年十一月十日第三種郵便物認可　毎月一回[illegible]日發行
昭和八年十二月二十日印刷納本　昭和九年一月[illegible]日發行

THE PICTORIAL WORLD

VOL. 10. JANUARY NO. 1

PUB. BY KOKUSAI JOHO SHA TOKYO JAPAN